

葵

58号 令和6年度



目 次

巻頭言	静岡県立中央図書館長 高橋 健二	1	
I 当館の概要 (令和6年度)		2	
1 沿革	2 令和6年度基本方針・事業体系	3 組織図	
4 職員	5 予算	6 資料 (1)収集基本方針 (2)資料概要	
II 事業報告 (令和5年度)		12	
1 静岡県の図書館をめぐるこの1年 (令和5年度)		13	
(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き	(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組		
(3) 県内市町の新図書館設置の動き	(4) 県内図書館その他の動き		
(5) 静岡県の新型コロナウイルス感染症の影響	(6) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催		
2 利用状況統計		19	
(1) 県立中央図書館利用状況	(2) 協力貸出	(3) レファレンス	
(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況	(5) 歴史文化情報センター利用状況	(6) 電子図書館利用状況	
3 図書館資料充実状況		22	
(1) 図書資料	(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等		
(3) 逐次刊行物 (新聞・雑誌)	(4) 電子書籍		
4 図書班		25	
(1) 図書資料の充実	(2) 視聴覚資料の充実	(3) 図書館利用状況	
(4) 予約・リクエスト・相互貸借 (含協力貸出)	(5) 子ども図書研究室		
(6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」	(7) 静岡県視聴覚ライブラリー	(8) 展示他	
5 新聞雑誌班		32	
(1) 逐次刊行物 (新聞・雑誌) の充実	(2) 提供情報の充実	(3) その他	
6 一般調査班		34	
(1) レファレンスサービス	(2) 市町立図書館などへの支援		
(3) 特別取扱資料等の保存と公開	(4) 障害者サービス	(5) その他の関連事業	
7 地域調査班		40	
(1) 地域資料の充実	(2) 提供情報の充実	(3) 資料展示 (4) 市町立図書館への支援	
(5) 地域資料のデジタル化	(6) 地域貴重資料の保存	(7) 地域視聴覚資料の媒体変換 (8) 歴史文化情報センター	
8 企画班		43	
(1) 図書館職員研修	(2) 利用者からの意見	(3) イベント等 (4) 図書館サポーター	
(5) 職場体験学習等	(6) 図書館広報	(7) ムセイオン静岡 (8) 浙江図書館との友好提携	
(9) 山梨県立図書館との連携協定	(10) 市町立図書館等受取サービス	(11) 図書館DX	
付属資料 令和5年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果			
9 振興班		56	
(1) 市町立図書館振興	(2) 関係団体との連携	(3) 協力車事業	
(4) 令和5年度 静岡県図書館大会	(5) 表彰 (敬称略・関係団体の表彰も含む)		
10 総務班		62	
(1) 図書館協議会	(2) 施設設備の維持管理	(3) 施設利用状況	
11 健康医療情報サービス		64	
(1) サービス内容	(2) 関連事業		
12 歴史文化情報センター (地域調査班)		65	
(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開	(2) 利用状況		
13 資料紹介 歴史文化情報センターの移転と中世CH資料の改装		66	
14 特集 貴重書講座スペシャル講演録 欧米への江戸幕府の眼差し - 葵文庫の洋書を中心に -		70	
III 施設及びサービス案内 (令和6年度)		74	
1 図書館配置図	2 施設の概要	3 ブラウジング・閲覧室案内図	4 利用案内 (令和6年度)
表紙	『三国通覧図説』 奥付		

そうだ、図書館に行こう！

静岡県立中央図書館長 高橋 健二

英語教師である自分は、高校生英語ディベート大会の運営委員として多くの試合を観戦してきた。ディベートでは、ある論題に関して賛成側か反対側に割り振られ、エビデンスに基づきかに論理的かつ説得力をもって主張できるかを競う。では、次の論題によるディベートに参加し賛成サイドに回った場合、自分ならどんな主張をするだろうか。

【論題】

図書館における館内閲覧は、家庭等でのデジタル閲覧より有益である

この場では、図書館及び紙媒体の優位性を以下の三点に絞って述べてみよう。

① 心身の健康の観点から

2022年度の学校保健統計調査では、裸眼視力が1.0未満の割合が小中高生いずれの段階でも過去最高だったことが示された。家庭でのスマートフォンや学校でのタブレット端末等で、光る画面を長時間近くから見るのが要因であり、画面から30cm目を離す等の注意が呼びかけられた。視力という物理的な側面のみならず、自宅(自室)に籠って周囲とのコミュニケーションを絶ち、動画やゲームの世界に入り込み、その結果、平常の生活に支障をきたすケースもある。しかし、図書館なら読書をサポートしてくれるスタッフもおり、コミュニケーションも楽しめる健全なサードプレイスとしての役割を果たすことも可能だ。

② 記憶力・思考力の観点から

ノルウェーのアン・マンゲン氏による研究で、同じ短編小説を紙の本で読んだ場合とiPadで読んだ場合を比較すると、iPadで読んだ読者の方があらすじ(ストーリー内で出来事が生じる順番)を記憶する度合いが「著しく」低かったことが広く知られている。紙の書籍ならページをめくって前後の文脈を再確認・整理するのも容易だが、電子ではそう簡単にはいかない。電子媒体は様々な情報を次々提示するため、読み手は完全に受け身になり、分かった気でどんどん読み進めてしまうのが原因であろう。電子媒体の過度の使用が、人間の記憶力・思考力の低下につながる可能性があることは認識しておくべきである。

③ serendipity の観点から

電子端末による情報検索では、求める回答が即時に得られるため利便性が高い半面、filter bubble(検索結果等から嗜好が特定され、対象外の情報が示されなくなる)効果で、主に自分が好む情報が表示され、視野が狭められる危険性がある。一方、閲覧室の図書は、NDC分類に基づいて書籍が並べられ、求める図書を探す過程で思わぬ資料を発見する機会が頻繁にある。ビジネス界で serendipity(貴重かつ喜ばしいものが偶然見つかる現象)が注目されるが、図書館こそ、まさに serendipity の宝庫と言える。

さあ、次はこれを読んでいる皆さんの反論の番です。仮にエビデンスを伴った論理的な反論がパッと浮かばない場合、上記の主張の是非を検証すべく、まずは図書館に行ってみましょう！日常の喧騒から離れ、主体的に調べ・考えることが可能な環境の下、新たな学びと出会いに満ちた素敵な図書館ライフで、知的好奇心が燃え上がることを祈念して。

【今回のお勧め資料】

落合早苗『電子書籍ビジネス調査報告書2022』インプレス, 2022.

永尾真由美「電子書籍と子どもの読書について」『子どもと読書』459号, 2023, p.5-8.

I 当館の概要（令和6年度）

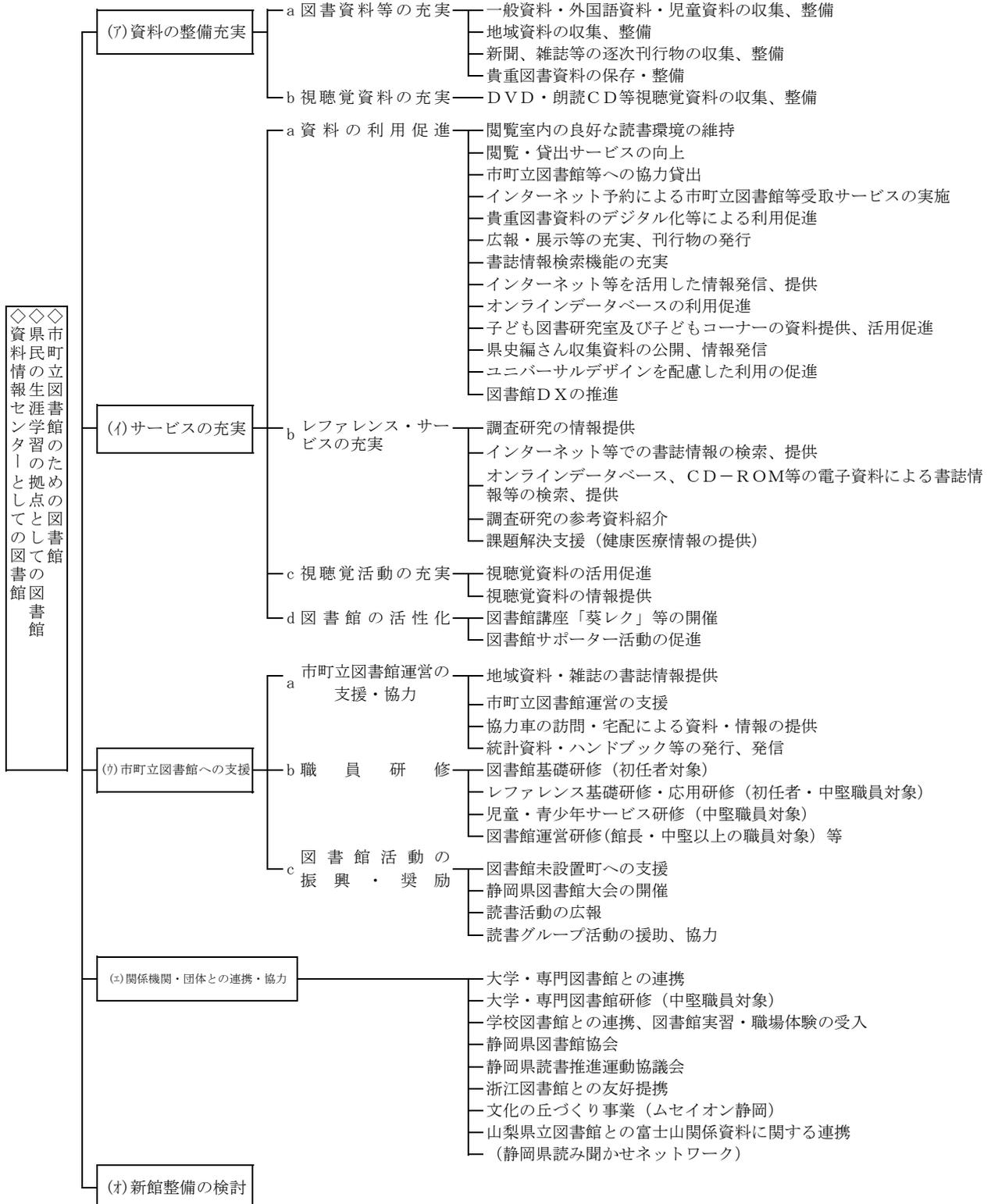
1 沿 革

大正10年11月17日	徳川家の記念事業として渋沢栄一氏等の寄附を得て、静岡県立図書館設立を県会に提案議決。 設立費17万円
大正13年10月	竣工
大正13年10月30日	貞松修蔵初代館長就任。開館準備事務を開始
大正14年4月1日	「静岡県立葵文庫」開館（蔵書約22,000冊、職員16名）
昭和3年11月3日	徳川頼貞氏、駿河版『群書治要』47冊を寄贈
昭和4年6月	山梨稲川百年祭記念事業として、『山梨稲川集』全4冊を刊行
昭和5年5月28日	昭和天皇陛下本県御巡幸第1日、静岡県立葵文庫に行幸、稀観書等を天覧
昭和8年9月	改正図書館令により、葵文庫が本県中央図書館に指定
昭和8年11月1日	10周年記念式典を挙げる
昭和12年8月30日	シヨメールの百科全書を邦訳した『厚生新編』を復刻頒布
昭和20年6月20日	戦災により、講堂及び付属木造箇所を焼失
昭和25年12月	「静岡県視聴覚ライブラリー」を静岡県立葵文庫内に設置
昭和28年4月1日	「日米文化センター」が静岡県立葵文庫に併置
昭和31年11月1日	図書館法に基づき、「静岡県立中央図書館葵文庫」と名称変更
昭和33年9月	課制を導入し、庶務課、整理課、奉仕課を設置
昭和36年4月	自動車文庫「あおい号」誕生、「茶の間のひととき読書」運動開始
昭和38年9月	文化センター建設準備委員会を設置し、基本計画の策定を開始
昭和42年4月	「日米文化センター」を静岡県日米協会に移管
昭和42年12月26日	文化センター基本計画に基づき、新図書館建築着工
昭和44年3月18日	新図書館完工
昭和44年6月30日	静岡県立中央図書館葵文庫を閉館、新館移転作業を開始
昭和44年7月12日	「静岡県文化センター設置条例」が制定され、「静岡県立中央図書館」と名称変更
昭和44年8月1日	新館に移転を完了、開館準備事務を開始 「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則（以下「組織運営規則」という）」が制定 され、庶務課、資料課、整理課、事業課の4課を設置
昭和45年3月20日	「静岡県立中央図書館協議会条例」及び「静岡県文化センター使用料条例」を制定
昭和45年4月18日	県文化センター開所、静岡県立中央図書館開館式を挙げる。20日から一般公開
昭和49年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、各課に2係制を導入
昭和50年11月10日	50周年を記念して『50年のあゆみ』を刊行
昭和60年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、庶務課を総務課に改正及び「静岡県視聴覚ライブラリー」設置を制定
昭和60年11月6日	静岡県立中央図書館協議会から「今後の県立中央図書館の在り方」について答申
昭和62年4月	静岡県公共図書館振興対策事業の実施（5か年計画）
昭和63年3月1日	「図書館利用規程」を改正し、市町村立図書館等への協力貸出を充実
昭和63年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、事業課を振興課に、普及係を協力係に変更
平成元年4月20日	静岡県立中央図書館協力車の運行開始
平成6年3月29日	電算システムによる業務を開始 電算導入に伴い、図書館等利用規程を改正
平成6年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、総務課、企画振興課、資料課、調査課の4課に変更
平成10年4月1日	「組織運営規則」の一部改正により、資料課地域資料係を調査課地域調査係に、調査課逐次刊 行物係を資料課新聞雑誌係に、調査課調査相談係を一般調査係に変更 閉館時間を、毎金曜日に限って午後8時まで延長
平成10年10月1日	Webサイトの開設（蔵書検索、貴重書、浮世絵、絵図等）
平成11年3月13日	グランシップ情報ラウンジ・県立図書館コーナーを開設
平成11年4月1日	歴史文化情報センターを、静岡県教育委員会文化課から静岡県立中央図書館に移管
平成12年4月1日	閉館時間を、毎水曜日、木曜日、金曜日について午後7時までに変更
平成12年6月1日	「デジタル葵文庫」インターネット提供開始
平成14年1月1日	資料棟地震対策緊急整備工事・特別整理のため、静岡県立中央図書館休館
平成14年2月18日	資料棟地震対策緊急整備工事着工。休館中の県民サービスとして、県女性総合センター「あざ

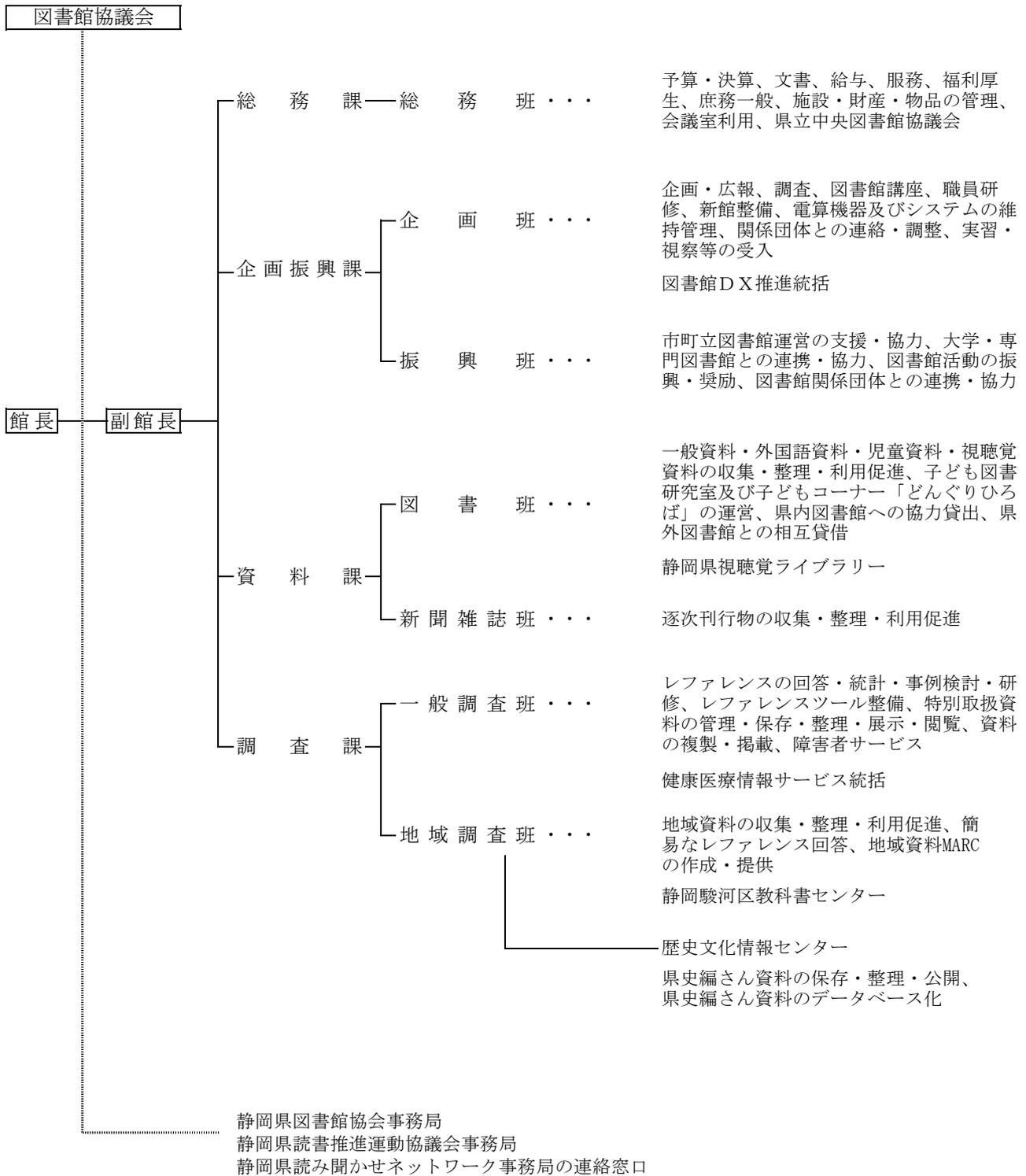
	れあ」県立図書館コーナーを開設
平成14年 5月31日	地震対策緊急整備工事完成
平成14年 6月13日	県女性総合センター「あざれあ」県立図書館コーナーを閉館
平成14年 8月 1日	静岡県立中央図書館業務を再開（地震対策緊急整備工事・特別整理終了） 葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館収蔵庫」に移動。10月12日から同センター「図書館コーナー」で閲覧開始
平成15年 4月 1日	グランシップ内で情報ラウンジ・県立図書館コーナーが移転、グランシップ県立図書館コーナーとして再開
平成15年 7月 2日	ビジネスコーナーを設置
平成15年11月27日	平成15年度第89回全国図書館大会静岡大会開催（～28日） 大会テーマ「創めよう！図書館の世紀～知・人・夢づくり～」
平成16年 3月18日	新電算システムに移行し、「横断検索」等を開始（第3期システム稼働）
平成16年 6月18日	子ども図書研究室を開設
平成17年 4月 1日	創立80周年記念事業を年間にわたり展開
平成17年 9月 1日	『「しずおか」の貴重書』刊行
平成19年 9月18日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～平成20年 2月22日）
平成19年10月26日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館に関する姉妹図書館締結の意向書」を浙江図書館にて調印
平成21年 2月24日	「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を当館にて締結
平成21年 3月11日	静岡県立中央図書館、静岡県立美術館、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県公立 大学法人静岡県立大学と4機関による「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結。21 年度には2機関の参加により6機関で「ムセイオン静岡」として事業推進
平成21年 7月 1日	インフォメーション棟耐震補強工事着工。3か月間工事のための休館（～9月30日）。その 後、工事及び工事に伴う関係作業のため一部開館（10月 1日～平成22年 3月30日）
平成21年 9月25日	葵文庫、久能文庫、特別取扱資料の一部を静岡県総合教育センター内「あすなろ県立図書館 収蔵庫」より当館に移動
平成21年10月 2日	『「しずおか」の貴重書（改訂版）』刊行
平成21年10月15日	『関口隆吉関係書簡集』発行
平成22年 2月25日	インフォメーション棟耐震補強工事完成
平成22年 5月 1日	図書館電算システムの更新及び当館Webサイトの全面リニューアル（第4期システム稼働） 静岡県関係資料及び雑誌の名称を、郷土資料、郷土雑誌から、それぞれ地域資料、地域雑誌 に変更。
平成22年 3月31日	耐震補強工事関連作業及びシステム更新作業のため休館（～5月31日）
平成22年 6月 1日	耐震補強工事及び関連作業と電算システム更新作業をすべて終え、リニューアルオープン。 また、携帯電話からレファレンスの申込及び事例検索が可能に。 葵文庫、久能文庫等の貴重書が、事前申込みにより本館で随時閲覧可能に。
平成22年 6月	「国民読書年」関連イベントを実施（～12月）
平成22年 9月 1日	「葵文庫」所蔵資料の約半数の全文が、インターネットから閲覧可能に。
平成23年 1月 8日	貴重書常設展示コーナー設置
平成23年 2月 1日	国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）と連携し、当館デジタルライブラリー が、PORTAから検索可能に。
平成23年 5月	電子書籍関連プロジェクト実施（～11月）
平成23年 7月 9日	健康医療情報コーナーを新設・記念イベント開催
平成23年11月29日	平成23年度関東・甲信越静岡地区図書館地区別研修開催（～12月 2日）
平成24年 1月26日	「葵文庫」所蔵資料のインターネットの全文閲覧を1,102冊（204タイトル）追加
平成24年 2月 1日	閲覧室等空調設備工事、資料棟屋上防水工事、防火設備等改修工事非常用照明設備工事、分 電盤改修工事等大規模改修工事及び特別整理のため、休館（3月15日まで）
平成24年 3月16日	閲覧室等空調設備工事等大規模改修工事完了、国立国会図書館歴史的音源サービスの提供開 始
平成24年 4月 1日	子ども図書研究室の一部複本資料の個人貸出を開始
平成24年 6月	図書館講座「葵レク」開始
平成24年 6月20日	おうだんくんサーチバージョンアップ
平成24年 7月	「大人の読書」推進 大切な人に贈る1冊「県民メッセージコンテスト・ふじのくにBookダ

	ービー」開催（～9月）
平成24年7月7日	静岡県埋蔵文化財センター常設展示開始
平成25年3月28日	「葵文庫」所蔵資料の全ページ電子化・公開
平成25年4月	歴史文化情報センター「授業の種」公開
平成26年2月	富士山関係資料デジタルライブラリー公開
平成26年7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの館内での利用を開始
平成27年4月1日	創立90周年記念事業を年間にわたり展開
平成27年6月2日	山梨県立図書館と「富士山関係資料に関する連携協定」を締結
平成27年8月	静岡県に関する行政資料の電子データ収集・デジタルライブラリーで公開
平成28年2月	閲覧室に公衆無線LAN設備導入
平成28年4月	祝日開館開始
平成28年6月	「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」本格導入
平成29年7月4日	閲覧室床にひび割れが確認されたことによる臨時休館（～7月31日）8月1日以降「閲覧室の利用」以外の業務を順次再開
平成30年3月	「新県立中央図書館基本構想」策定
平成30年4月1日	「静岡県文化センターの組織及び運営に関する規則」を「静岡県文化センター運営に関する規則」に改正
平成30年5月7日	旧埋蔵文化財センター建物を分掌替により所管
平成31年2月15日	閲覧室床ひび割れ補修工事完了
平成31年3月14日	閲覧室の利用を再開
平成31年3月	「新県立中央図書館基本計画」策定
令和元年10月11日	浙江図書館職員を静岡県海外技術研修員として受入れ（～令和2年2月25日）
令和元年10月12日	台風19号接近に伴う臨時休館
令和2年3月	「新県立中央図書館管理運営計画」策定
令和2年4月18日	新型コロナウイルス感染防止対策のため臨時休館（～5月11日） （4/18～4/27はシステム更新による休館）
令和2年8月	「新県立中央図書館基本計画」改訂
令和2年9月7日	グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」閉室
令和2年10月1日	子どもコーナー「どんぐりひろば」開設
令和2年12月1日	令和2年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修会開催（～12月4日、ライブ配信）
令和3年3月	「新県立中央図書館整備計画」策定 「県立中央図書館司書育成指針」策定
令和3年9月	「新県立中央図書館整備計画」「新県立中央図書館管理運営計画」更新
令和3年10月1日	電子図書館サービス開始
令和4年3月	「県立中央図書館司書育成指針」改訂
令和4年9月	「新県立中央図書館システム基本構想」策定
令和5年7月	新県立中央図書館基本設計の完成、概要の公表
令和5年11月1日	静岡中央ビルの老朽化による建替工事に伴う移転作業のため、歴史文化情報センター休館 （～令和6年4月1日）
令和5年11月13日	第30回記念大会静岡県図書館大会を開催
令和6年4月2日	歴史文化情報センターが本館にて業務再開

2 令和6年度基本方針・事業体系



3 組織図



4 職 員

		館 長	高橋 健二						
		副 館 長	山内 小百合						
総 務 課	総務課長 (兼)		山内 小百合	(副館長)					
	総務班	総務班長	田中 理一	\					
		主 査	真野 聡						
		主 任	東元 香澄						
		主 事	石黒 愛梨						
主 任	松村 裕理								
企 画 振 興 課	企画振興課長		田 辺 章						
	企画班	企画班長	青木 修	振 興 班	振興班長		青山 滋乃		
		主 査	渡辺 勝		主 査	川崎 祥子			
		主 査	杉山 みつ江		主 任	殿岡 容子			
主 査	入月 卓也								
資 料 課	資料課長		木 村 知 美						
	図書班	図書班長	三枝 春奈	新 聞 雜 誌 班	新聞雑誌班長		水井 千保子		
		主 任	眞子 みな		主 査	安田 宏美			
		主 任	前林 真美		主 事	田中 凌太			
		主 事	上村 まりを						
技 能 員	加藤 桂子								
調 査 課	調査課長兼一般調査班長		鈴 木 由 美						
	一般調査班	主 査	児玉 匡史	地 域 調 査 班	地域調査班長		八木 麻美		
		主 査	竹本 千春		教 育 主 幹	山本 加奈恵			
		教 育 主 査	土屋 祐加		主 事	板橋 由佳			
		教 育 主 査	水野 彰紀		主 事	山中 菜緒			
					(歴史文化情報センター)				
					教 育 主 幹	柴 雅房			
					教 育 主 査	尾上 容子			
		主 任	大林 元						

5 予 算

(単位：千円)

事業名	R6 予算額	説明(図書館が行う事業)
県立中央図書館管理運営費	115,600	・図書館の利用者サービスの充実を図るための経費 ・県立中央図書館の利用者に快適な読書環境を提供するための、施設等維持管理に要する経費
県立中央図書館資料充実費	86,900	・図書及び逐次刊行物の購入・製本・補修等、資料整備充実に関する経費（電子書籍3,800千円含む）
合 計	202,500	

6 資 料

(1) 収集基本方針

ア 一般資料

県立図書館の蔵書構成の基本となる一般図書の収集については、調査研究用の参考図書類を中心に全分野にわたり幅広く収集する。

イ 児童資料

中学生までを対象とした児童図書を全点（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く）収集する。特に選定された児童図書は、さらに複数部収集する。なお、15歳から18歳未満対象（YA）の図書についても選書及び収集に配慮する。

ウ 地域資料

県立図書館としての基本的役割である県全域の地域資料の収集については、地域の文化遺産としての歴史的資料、現在の地域社会理解のための参考資料の収集強化を図る。また、地域資料の中核となる静岡県関係の歴史、地誌、人物、民俗、文学等の一般資料や県及び各市町が刊行する地方行政資料を積極的に収集する。

エ 逐次刊行物（新聞、雑誌）

学術雑誌、業界誌、官公庁広報及び一般教養雑誌など逐次刊行物の充実に努める。地域雑誌の収集にも留意する。

オ 視聴覚資料

優れた映像や音響への要求が高まる中で、文化的、教養的内容のものを収集する。その収集については、特に静岡県及び図書館に関するもの並びに資料の芸術性、記録性、効用性を考慮する。

カ 外国語資料

県民（在住外国人を含む）の国際理解や日本理解及び生涯学習を援助し、また外国語を通しての読書及び基本的な調査研究の機会を提供する目的で収集する。

キ 電子書籍

「学習」、「仕事」、「QOL(生活の質)向上」を主なテーマとし、高校生・大学生から社会人の「次の一歩」を支援する資料を収集する。

※留意事項

資料の収集に当たっては、国立国会図書館、市町立図書館及び各種類縁機関との機能を考慮している。

(2) 資料概要

ア 一般資料

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

イ 児童図書

- ・絵本
- ・児童書(コミック、ゲーム攻略本、学習参考書を除く)

ウ 地域資料

- ・静岡県に関する資料
- ・静岡県出身者、在住者の著作
- ・静岡県刊行物(統計書、調査報告書など)
- ・県内自治体刊行物(要覧、統計書、例規集など)

エ 逐次刊行物(新聞・雑誌)

- ・一般紙(誌)、学会誌などの専門誌、研究機関や大学の紀要類、会社や研究所の研究技報類
- ・静岡県内発行の新聞・雑誌・広報
- ・静岡県公報、県議会議事録

オ 視聴覚資料(県視聴覚ライブラリー資料を含む)

- ・DVD ・朗読CD ・ビデオテープ ・CD-ROM ・マイクロフィルム

カ 外国語資料

- ・辞典、事典などの基本参考図書
- ・日本関連図書(日本語著作の外国語版を含む)
- ・各分野の一般図書

キ 電子書籍

- ・総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、言語、文学など各分野の図書
- ・各分野における辞典、便覧、年鑑、目録などの参考図書
- ・行政資料

ク 特殊コレクション等

(ア) 特殊コレクション

資料名	受入時期	旧所蔵/寄贈者	概要
葵文庫	大正 13	静岡師範学校	・江戸幕府の旧蔵書で、和漢書 1,261 冊、蘭・仏・英・独などの洋書 2,325 冊の 3,586 冊からなる(『江戸幕府旧蔵書目録』(葵文庫)(昭和 45 年 4 月 18 日発行)による)。 ・明治元年府中(静岡)藩成立の時、駿府城内に設けられた学問所の蔵書となり、静岡師範学校を経て当館の所蔵となり、昭和 45 年「葵文庫」と名づけられた。
久能文庫	大正 13 昭和 4 昭和 56 昭和 59 平成 25	関口壮吉 関口隆克	・第 3 代静岡県令(初代県知事)関口隆吉収集の図書・文書・記録類 837 部 2,455 冊からなる。 ・図書は徳川氏関係及び軍事・外交・農業を中心とする。 ・文書は三条実美・大久保利通・伊藤博文・勝海舟・山岡鉄舟など多数の名士書簡を含む。 ・隆吉収集の図書は、その没後、久能山東照宮に保管され、当館設立の議が決定された大正 10 年に県に「久能文庫」として寄贈された。

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
上村順太郎 蒐集浮世絵	昭和 11	上村五郎	・上村順太郎が集めた江戸時代から明治までの浮世絵（錦絵）など版画類約 5,100 枚

(イ) 主な本県ゆかりの貴重資料

資料名	受入時期	旧所蔵／寄贈者	概要
山梨稲川遺稿類	昭和 2 昭和 9	田中光顕 戸塚 幸 米山梅吉	・山梨稲川の遺稿・書簡など 103 点からなる。
内山真龍関係文献	昭和 11	徳川家達他 7 人	・内山真龍関係の軸 6 幅と和書 2 冊 ・軸のうち遠州国学者関係書翰集 2 幅は、 学者の真龍宛書翰等 113 点を収録。
大井文庫	昭和 15	大井 博	・静岡浅間神社の神主大井家の資料約 1,600 点、神道・国学・郷土関係を中心とする。

(注) ^{やまなしとうせん}〔山梨稲川〕(1771～1826) 漢学者、詩人。明和 8 年に庵原郡西方村（現静岡市清水区）に生まれる。稲川の号は 1811 年、駿府稲川村（現静岡市駿河区）に居を移したことによる。稲川の学問の特徴は「音韻論に先鞭をつけたもの」と内藤湖南は「先哲の学問」の中で評した。また門人を中心に漢詩の結社「楽山吟社」を主宰した。

^{うちやままたつ}〔内山真龍〕(1740～1821) 国学者。元文 5 年に豊田郡大谷村（現浜松市天竜区）に生まれる。1762 年賀茂真淵に入門、真龍と称す。真龍の国学史上の功績はその研究著述のほか、遠江、三河、駿河、信濃等 135 人に及ぶ門人を教育したことにより、特に遠州国学の基礎を築いたことである。

参考文献：静岡新聞社出版局編．静岡県歴史人物事典．静岡新聞社，1991．

Ⅱ 事業報告（令和5年度）

1 静岡県の図書館をめぐるこの1年（令和5年度）

(1) 図書館をめぐる社会情勢と本県の動き

ア 公立図書館の現状

令和5年4月1日現在、全国の自治体数1,788に対する図書館設置自治体数は、令和4年度から市区で1、町村で4、それぞれ増加して1,399、設置率は78.2%である。図書館数は、令和4年度から市区立で3、町村立で2、それぞれ増加して3,292である。令和元年度からは、市区立で5減少、町村立で9増加している。図書館法（昭和25年法律第118号）制定から73年が経過しているが、設置率は市区立の99.1%に比べて、町村立は58.7%と、いまだ低い状況にある。また、一般財団法人地方自治研究機構は、令和5年9月29日に、図書館法第10条や地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第1項の規定に基づき制定される図書館の設置等に関する条例の動きを更新している。（http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/reiki/095_library.htm）

指定管理者制度を巡る現状は、「図書館における指定管理者制度の導入等の調査について2022（報告）」（日本図書館協会図書館政策企画委員会）によると、令和3年度までに導入または令和4年度に導入予定の館は、都道府県立図書館では施設管理のみの指定管理者も含め7府県8館、市区町村立図書館では288自治体670館となっており、令和5年度以降に導入を予定しているのは18自治体であった。県内の市町立図書館は、御殿場市立図書館が令和5年4月1日から窓口業務に導入し、昨年度から1市増加して、3市1町となった。

イ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

新型コロナウイルス感染症について、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）に規定する位置付けが、令和5年5月8日に5類感染症に変更された。これを受け、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和3年11月19日新型コロナウイルス感染症対策本部決定）は、同日に廃止された。公益社団法人日本図書館協会が令和2年5月に策定した「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」もそれに合わせて廃止され、その後は、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部の「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更後の基本的な感染対策の考え方について（令和5年5月8日以降の取扱いに関する事前の情報提供）」等を参考に、各図書館の判断で対策を行うこととなった。これにより、それまで実施されてきた様々な対策（マスク着用、パーテーション設置、座席の間引き等）が撤廃、または大きく緩和され、多くの図書館でコロナ前の状態に戻る、または近づくこととなった。

その後、感染者数が増加傾向となる時期もあったが、5類への変更以前のように、国からの各種制限等の指示はなく、従前どおりの図書館運営を行う館がほとんどだった。

ウ デジタル化の進展

コロナ禍により、非接触・非対面、来館不要の電子図書館サービスは全国的に導入が進んだ。一般社団法人電子出版制作・流通協議会の調査によると、公共図書館の電子図書館サービス（電子書籍サービス）導入自治体は、令和4年1月時点では272自治体（15.2%）であったが、令和5年1月時点では461自治体（25.8%）、令和6年1月時点では534自治体（29.9%）へさらに増加している。県内では令和4年度に3市、令和5年度に2市が導入し、県を含む11自治体（30.6%）が導入済みである。

図書館のデジタル化関連の具体的な例としては、以下のものが挙げられる。

- ・国立国会図書館が、「次世代デジタルライブラリー」に資料画像に含まれる表の構造化が可能となる新機能を追加。その他、デジタルコレクションで提供しているデジタル資料のうち、約75万点について新たにテキスト化を開始し、順次その全文検索ができるようになった。また、「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」と「国立国会図書

館サーチ」を統合・リニューアルし、新たなウェブサービス「国立国会図書館サーチ」の運用を開始した。これにより、国立国会図書館の資料やデジタルコンテンツの検索と各種サービスの申込み、都道府県立図書館及び政令指定都市立図書館が所蔵する図書の書誌・所在情報の検索、その他全国の公共図書館等が提供する資料やデジタルコンテンツの検索が、ひとつのウェブサービス上で行えるようになった。さらに、「レファレンス協同データサービス」をリニューアルし、ウェブアクセシビリティの確保・向上を図るとともに、スマートフォンからの閲覧にも対応したデザインとなった。

- ・東京都立図書館が、電子書架「Digital BookShelf」を試行を経て本格実施した。また、所蔵資料紹介型チャットボット「AI ChatShelf」の試行提供を開始した。
- ・山梨県立図書館が、公益財団法人放送番組センター運営の「放送ライブラリー」が保存・公開しているテレビ・ラジオ番組のうち、山梨県に関係する過去の番組の一部を同館内のパソコンで視聴できるサービスを開始した。
- ・愛知県立図書館が、県内のデジタル行政資料（デジタルのみで発行、公開されたもの）の公開（試行）を開始した。
- ・大阪府立図書館が、図書館システムを一新し、同館Webサイト、横断検索等もリニューアルするとともに、携帯端末で利用者カードのバーコードを表示するなどの新サービスを開始した。
- ・和歌山県立図書館が、電子書籍サービスを開始するとともに、データ化した貴重資料の一部の公開を開始した。
- ・鳥取県立図書館が、電子書籍サービスを開始した。
- ・宮崎県立図書館が、若山牧水の遺墨等のデジタル化画像をデジタルアーカイブ上で公開した。
- ・沖縄県立図書館が、図書館システムに座席予約、AI探索システム等の新機能を搭載した。
- ・横浜市立図書館が、図書館システム等をリニューアルし、青山学院大学と富士通Japanが共同開発したAIを活用した蔵書検索システムを全国で初めて導入した。
- ・郡山市中央図書館が、全国で初めての取組として、公益財団法人放送番組センター提供の「全国放送番組アーカイブ・ネットワークサービス」を導入した。
- ・山中湖村山中湖情報創造館が、レファレンスツールとしてChatGPT+を導入した。
- ・福岡県遠賀郡の4町（水巻町、岡垣町、遠賀町、芦屋町）が、共同運営する「遠賀郡広域電子図書館」のサービスを開始した。
- ・東京音楽大学附属図書館が、「伊福部昭デジタルアーカイブ」を公開した。
- ・岡山大学附属図書館が、池田家文庫藩政史料のマイクロフィルムをデジタル化したデータを公開した。

エ 読書バリアフリー法

令和元年6月28日に公布された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）第8条第1項には、地方公共団体は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画を定めるよう努めなければならない。」とあり、計画の策定に当たっては、令和2年12月に文部科学省から「視覚障害者等の読書環境の整備の推進における留意事項について」の事務連絡が発出されている。文部科学省による令和5年2月1日時点の調査では、都道府県のうち、計画の策定済みが13、策定作業中が7、検討中が22、予定なし（未定含む）が5となっている。計画の位置づけとしては、策定済み、作業中、検討中のうち単独の計画が13、障害者政策の計画の一部に位置づけが15、その他の計画の一部に位置づけが6、未定が8となっている。

令和5年7月、国立国会図書館が事務局となる「図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会」は、「電子図書館のアクセシビリティガイドライン1.0」を公開した。これは、視覚障害者等が商用の電子書籍を図書館を通じて提供するサービスを利用するにあたって必要なアクセシビリティに係る要件を整理することを目的としており、公立図書館、大学図書館、学校図書館（以下「公立図書館等」という。）及び電子書籍事業者に活用されることを想定してい

る。ガイドラインには、電子図書館のアクセシビリティを維持するために、公立図書館等と電子書籍事業者のそれぞれに対して求められる運用体制と運用手順、電子図書館のウェブサイトとビューアのそれぞれにつき、利用者が電子図書館を利用する手順ごとにアクセシビリティを実現するための要件が示されている。今回盛り込まれなかったその他のアクセシビリティ機能については引き続き調査が行われ、更新に向けた作業が継続される予定である。

また、国立国会図書館は、読書バリアフリーの推進に向けて、令和6年1月5日に国立国会図書館障害者用資料検索（愛称：みなサーチ）の正式版を公開した。令和5年3月にβ版を試験公開し、障害当事者の意見を踏まえて改善を図っての公開となった。このサービスは、目の見えない方・見えにくい方、活字の図書を読むのが難しい方など、様々な障害のある方が利用しやすい形式の資料（点字、大活字本、電子書籍など）を探することができるものとなっている。

オ 著作権法改正

コロナ禍により、国立国会図書館や公共図書館、大学図書館等に来館せずに利用できるデジタル化資料へのニーズが、研究者・学生等の個人から高まった。これを受け、図書館等が著作物の公衆送信等を行うことができるよう「著作権法の一部を改正する法律」が令和3年5月26日に参議院で可決・成立し、6月2日に公布された。「国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信」は公布日から1年を超えない範囲内で政令で定める日（令和4年5月1日）から、「各図書館等による図書館資料のメール送信等」は公布日から2年を超えない範囲内で政令で定める日（令和5年6月1日）から、それぞれ施行された。

法改正を受けて、国立国会図書館は、令和4年5月19日からデジタル化した資料のうち絶版等資料をインターネット経由で個人に送信する「個人向けデジタル化資料送信サービス（略称：個人送信）」を開始した。サービス開始当初は閲覧のみだったが、令和5年1月18日から印刷機能の提供が開始された。サービスの利用は「登録利用者（本登録）」で日本国内に居住している者が対象となり、「簡易登録利用者（旧インターネット限定登録利用者）」及び居住地が日本国外の者は対象外となる。

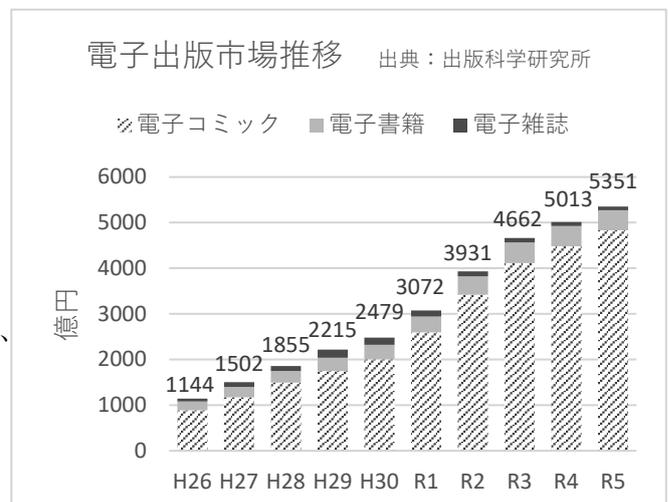
また、各図書館等による図書館資料の公衆送信については、一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）において、各図書館等が権利者に補償金を支払い、調査研究のため著作物の一部分を利用者に送信できる制度設計を進め、令和5年3月29日に文化庁から「図書館等公衆送信補償金規程」が認可された。

令和5年5月30日、図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会により「図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン」が制定された。これは、従前から行われていた図書館等における複写サービスに加えて、令和3年の著作権法改正により追加された図書館等における公衆送信サービスに関する法令の解釈とその運用について定めるものである。

カ 出版界等の動き

公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所は、令和6年1月25日発売の『季刊出版指標』（旧『出版月報』）冬号で2023年の出版市場規模を発表。紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、前年比2.1%減の1兆5,963億円であった。

紙の出版物は前年比6.0%減の1兆612億円、電子出版は前年比6.7%増の5,351億円であった。内訳は、電子コミックは前年比7.8%増で電子出版全体の9割に達したが、電子書籍は1.3%減、電子雑誌は8.0%減となった。



キ 当館の対応（図書館 DX）

当館では令和3年度に図書館DX実証実験として貸出カードのスマホ表示、利用者登録等Web申込、電子図書館の導入を行い、継続して運用している（詳細については「静岡県立中央図書館Webサービス拡充事業の事業報告及びその課題：図書館DX実証実験を中心に」（『専門図書館』307号）を参照）。利用者登録等Web申込については、県内の高等学校・特別支援学校にクラス単位・学校単位での申込み募集を行い、12校から申込みがあった。電子図書館の朝読書等での活用が期待される。あわせて、学校での活用を促すため、利用者登録をしていなくても電子図書館を閲覧できるように、共用の利用者番号とパスワードを発行し、教職員に体験してもらう利用促進期間を設けた。

また、インターネット上に公開されている静岡県内自治体の行政資料PDFを自動収集するために開発したクローラーにより、令和6年1月末時点で約150万件のファイルを収集した。今後、著作権に関する処理などを進め、処理の済んだものから順次公開を開始する予定で、引き続き、システムの運用、資料の利活用の方法等について検討していく。

非来館型サービスとして実施しているインターネット予約による市町立図書館等受取サービスでは、令和5年7月に御殿場市、島田市を追加し、受取館は20館となった。

(2) 静岡県立中央図書館の新館整備に向けた取組

「C+A※・アイダアトリエ・日建設計（エンジニアリング）設計企業体」とともに進めている設計業務のうちの基本設計が完了し、令和5年7月にその概要版を公表した。

引き続き実施設計の段階に入り、細部の検討や調整を進めるとともに、新館整備に関する下記の取組を行った。

- ・埋蔵文化財未調査エリアの発掘調査を実施した。
- ・木材の調達や活用に関し、外部のアドバイザーからの助言を受けた。
- ・1、2階の交流スペースの運用に関し、外部のアドバイザーからの助言を受けた。
- ・移転に伴う汚損等を避けるための貴重書の外装や、新館で新たに行うサービス用の資料を作成・購入した。

《基本設計の概要版より抜粋》

- ・地上9階建てで延べ床面積は約19,800㎡、
収蔵可能冊数は最大200万冊
- ・中央に書庫等を可視化した「資料体」を配置、公開書庫として最大80万冊を閲覧可能
- ・低層階にホールやセミナールーム、カフェなど賑わいのある交流スペースを設置
- ・内装に木材を使い、温かみのある空間を作り上げるとともに、県産家具の活用も検討
- ・富士山が眺望できる閲覧席やテラスを配置

※C+A：シーラカンズアンドアソシエイツ



(3) 県内市町の新図書館設置の動き

ア 市町立図書館数の推移（各年度4月1日現在）

年 度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市立図書館（本館）	23	23	23	23	23
同（分館）	59	59	59	59	59
町立図書館	11	11	11	11	11
合 計	93	93	93	93	93

※静岡県図書館協会加盟館数は、県立1、市町立94、町立図書室1、大学・専門30、合計126館（分館を含む。）

イ 新図書館設置の動き

伊東市教育委員会は、令和4年1月に「伊東市新図書館基本計画」を策定、3月に伊東市新図書館基本設計の概要を公表し、令和6年度中の開館を目指すとした。しかし、令和5年5月に建設工事に係る入札が不調となり、再入札に向けて検討したが、資材価格や人件費の高騰を考慮して、当面の間、入札を見送ることを8月21日の定例記者会見で市長が明らかにした。その後、設計事務所を通じた施工業者へのヒアリングや市場分析の結果、11月27日に「現計画のコンセプトや概念は維持しつつ、縮小するための再設計を実施する」ことが発表された。これにより、最速で令和7年4月に入札、7月に着工、令和9年の開館を目指すこととなった。

御殿場市教育委員会は、郷土資料館との複合施設となる新図書館について、公募型プロポーザルを実施し、令和4年1月20日に久米・蒼設計共同企業体と基本計画及び基本・実施設計業務委託契約を締結した。また、市民ワークショップを3回、小学生ワークショップを2回開催し、11月に「御殿場市立図書館等整備基本計画」を策定した。令和5年8月28日には実施設計が発表され、10月に建築工事の入札を行ったが不落となり、12月に再度入札を行い、施工業者が決定、着工した。令和8年4月の開館を予定している。

(4) 県内図書館その他の動き

ア 改修工事、周年記念イベント等

- ・下田市立図書館は、4月から「まちじゅう図書館」事業を開始した。市内の喫茶店等に図書館の蔵書を置いてもらい、市民が本に親しむ機会を増やすことなどを目的としている。
- ・河津町立文化の家図書館は、創立20周年を迎え、記念として職員手作りのしおりを来館者にプレゼントした。
- ・沼津市立図書館は、開館30周年を迎え、市制100周年もあわせて記念し、寄贈された動物のトピアリーを玄関付近に設置したほか、企画展「本でたどる沼津の100年」、「沼津の学校と教科書のあゆみ展」等を開催した。
- ・函南町立図書館は、開館10周年を迎え、記念として図書館の入る複合施設、かんなみ知恵の和館のロゴマークを募集し、8月にロゴマークを決定した。また、文芸作品（エッセイ、短歌、俳句、川柳）と短編小説を募集し、応募作品を館内に展示したり、冊子形式にして配布するとともに、著作者の許諾を得た20作品をWebサイトで公開した。
- ・静岡市立図書館は、図書館システムの更新を行い、3月1日から電子図書館、利用者登録の電子申請、スマートフォンでの利用者バーコード表示の各サービスを開始した。
- ・静岡市立藁科図書館は、5月1日から令和6年4月19日まで大規模改修工事のため休館し、20日にリニューアルオープンした。
- ・牧之原市立榛原図書館は、5月1日からリニューアル工事のため休館。リニューアルオープンに合わせて「文化の森図書館」と名称変更した。愛称は市民から募集し、その中から市民投票により「いろ葉」に決定。令和6年4月21日に開館した。
- ・御前崎市立図書館は、開館30周年を迎え、記念として「角野栄子講演会」を開催した。
- ・袋井市立袋井図書館は、令和6年1月4日から2月29日まで改修工事のため休館した。
- ・磐田市立中央図書館は、現在地に移転、新築開館して30周年を迎え、教育シンポジウムや「動物画家・藪内正幸原画展」、市役所での記念展示等、年間を通して記念イベントを実施した。
- ・磐田市ひと・ほんの庭にこっとは、開館5周年を迎え、人形劇、コンサートなど多彩なイベントを行った。その他、7月下旬から8月末にかけて、テレビ番組の公開録画等、様々なイベントを開催した。
- ・浜松市立図書館は、図書館システムの更新を行い、10月13日から図書館利用アプリの提供を開始するとともに、マイナンバーカードで貸出しできるサービスを開始した。

イ 令和4年台風15号による被害対応

令和4年9月23日夜から24日朝にかけて最接近した台風15号により浸水被害を受けた静岡市立南部図書館では、CD盤洗浄、消毒、ケース修理等の作業が終了し、令和5年7月27日からCDの貸出・予約を再開した。その後、地下電動書架修繕工事や準備作業等を完了し、10月26日から図書、雑誌の貸出も再開され、全面復旧した。

(5) 静岡県の新型コロナウイルス感染症の影響

ア 県内図書館の状況

新型コロナウイルス感染症は5月8日に5類感染症に変更され、カウンターに設置されていたパーテーションは撤去、カウンターで業務につく職員もマスクの着用は個人の判断に委ねる、などの対応をとる館が多くなった。

イ 新型コロナウイルス感染症対策に伴う当館の取組

新型コロナウイルス感染症の状況		当館の対応	
期間	項目	期間	内容等
令和5年	3/3 ～3/12	国評価レベル1 (感染小康期)	3/1～ 閲覧席、学習コーナー、休憩コーナー 全席復旧
	3/13～	マスク着用の緩和 (着用は個人の判断に委ねる)	3/13 ～5/7 マスク着用の緩和 利用者：個人の判断に委ねる 職員：窓口業務中等は着用 それ以外は個人の判断
	5/8～	感染症法上の位置付けが 5類へ変更	5/8～ カウンターのパーテーションを撤去 マスク着用について、職員も常時個人の 判断に委ねる 5/16 検温装置撤去

(6) 静岡県図書館大会、関係団体関係事業等の開催

ア 第30回記念大会静岡県図書館大会

コロナ禍により令和2年度は中止、令和3年度はオンライン開催、令和4年度は3年ぶりにグランシップで開催したが、間隔をあけて座席を指定するなど、制限を設けての開催だった。

令和5年度は、4年ぶりにコロナ前と同様に制限のない形で、第30回記念大会として開催した。午前は開会式、表彰式のあと、特別講演として明治大学文学部の齋藤孝教授に「読書が生み出す力・導く力」と題して講演いただき、午後には6つの分科会で多彩な講師陣による講演やワークショップを行い、全体で1,001人が参加した。

また、2月1日から同月29日までの間、申込制によるYouTube限定配信を行った(第1、2、4、5分科会のみ。累計閲覧回数826回。)

イ 読書関係団体の実施事業

静岡県読み聞かせネットワークは、全体研修会に元福音館書店編集者である古川信夫氏を招聘し、「戦後日本の絵本出版の到達点～希代の出版人松居直の仕事に則して」と題して講演いただいた。

また、静岡県読書推進運動協議会は、静岡県図書館大会を共催し、理事が第3分科会「子どもの読書活動」を担当した。例年実施している夏休み子ども図書ウィークは、定員の制限をなくして5つの教室(「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」「ふじっぴーの親子グラフ教室」「親子自然観察教室」「プログラミング教室」「折り紙遊び教室」)を開催した。

2 利用状況統計

(1) 県立中央図書館利用状況

令和5年度 開館日数・入館者数・新規登録者数・貸出人数・貸出数

年・月	開館 日数	入館者数		新規 登録者数	貸出人数	貸出数			
		人数	一日平均			図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚(点)	合計
5・4	27	11,617	430	503	1,786	7,999	873	259	9,131
5・5	27	12,291	455	555	1,602	7,325	825	252	8,402
5・6	27	12,502	463	1,794	1,774	7,992	772	157	8,921
5・7	28	14,520	519	223	1,838	8,270	837	182	9,289
5・8	28	15,724	562	201	1,980	9,199	870	191	10,260
5・9	27	13,599	504	135	1,786	7,937	900	170	9,007
5・10	27	14,218	527	492	1,889	8,198	954	154	9,306
5・11	26	14,230	547	151	1,918	8,603	841	236	9,680
5・12	25	10,803	432	105	1,756	8,333	1,013	190	9,536
6・1	11	5,324	484	86	987	5,582	566	107	6,255
6・2	26	14,496	558	188	2,312	10,305	1,163	234	11,702
6・3	28	12,685	453	132	1,869	8,952	1,081	236	10,269
合計	307	152,009	495	4,565	21,497	98,695	10,695	2,368	111,758

新規登録者数のうちWeb申込登録者数	3,101
令和5年度末有効登録者数	89,673

(2) 協力貸出

(単位：点)

年・月		5 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	6 ・ 1	2	3	合計
市立 図書館	図 書	402	403	361	456	340	314	435	396	250	392	429	434	4,612
	雑 誌	19	39	27	45	26	21	29	25	18	27	17	27	320
	視聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
町立 図書館	図 書	57	64	40	56	62	52	68	52	38	45	57	53	644
	雑 誌	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	視聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学・専門 図書館	図 書	46	28	28	26	43	42	32	42	36	16	25	59	423
	雑 誌	10	7	10	7	3	1	4	5	5	1	2	2	57
	視聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	図 書	505	495	429	538	445	408	535	490	324	453	511	546	5,679
	雑 誌	29	46	37	52	29	23	33	30	23	28	19	29	378
	視聴覚	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
総計		534	541	466	590	474	431	568	520	348	481	530	575	6,058

※町立図書館には条例未設置町の図書室を含む。

(3) レファレンス

(単位：件)

年・月		5 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	6 ・ 1	2	3	合計
書誌・文献・事実調査		187	177	238	201	229	220	243	178	195	128	234	238	2,468
(静岡県関係)		45	52	78	86	93	94	85	45	59	33	100	81	851
所蔵・所在調査		195	234	324	359	279	188	265	284	214	136	302	165	2,945
(静岡県関係)		43	61	66	85	68	38	55	76	68	25	83	31	699
合 計		382	411	562	560	508	408	508	462	409	264	536	403	5,413
(静岡県関係)		88	113	144	171	161	132	140	121	127	58	183	112	1,550

(4) 静岡県視聴覚ライブラリー貸出状況

(単位：点)

区分	年・月												合計
	5 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	6 ・ 1	2	3	
16mmフィルム	7	4	0	6	3	8	4	10	0	0	6	6	54
ビデオテープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DVD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	4	0	6	3	8	4	10	0	0	6	6	54

(5) 歴史文化情報センター利用状況

(単位：人、件)

年・月	年・月												合計
	5 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	6 ・ 1	2	3	
入室者数	12	7	14	5	19	14	40	0	0	0	0	0	111
資料利用件数	11	6	19	4	30	17	56	0	0	0	0	0	143
資料掲載等許可件数	7	5	3	4	2	3	12	0	0	0	0	0	36
レファレンス件数	8	4	13	11	8	11	11	0	0	0	0	0	66

(6) 電子図書館利用状況

(単位：件)

年・月	年・月												合計
	5 ・ 4	5	6	7	8	9	10	11	12	6 ・ 1	2	3	
閲覧数	723	1,356	929	1,317	1,239	1,035	748	1,856	976	1,178	1,703	1,455	14,515
試し読み	129	264	237	194	196	319	41	287	92	161	153	93	2,166
リクエスト件数	1	0	1	1	0	0	5	1	0	0	0	0	9

3 図書館資料充実状況

(1) 図書資料

(単位：冊)

分類	令和4年度末蔵書数	令和5年度中増減				令和5年度末蔵書数		
		受入数	払出数	類換数	増減数	蔵書数	比率(%)	
一般資料	0 総記	63,434	1,464	17	0	1,447	64,881	6.8
	1 哲学	33,894	523	5	0	518	34,412	3.6
	2 歴史	63,382	850	13	0	837	64,219	6.7
	3 社会科学	157,512	2,578	47	0	2,531	160,043	16.8
	4 自然科学	54,920	1,436	7	0	1,429	56,349	5.9
	5 技術	57,478	986	18	0	968	58,446	6.1
	6 産業	41,330	611	4	0	607	41,937	4.4
	7 芸術	43,957	826	13	0	813	44,770	4.7
	8 言語	13,721	243	0	0	243	13,964	1.5
	9 文学	62,892	778	11	0	767	63,659	6.7
	小計	592,520	10,295	135	0	10,160	602,680	63.3
児童資料	児童日本語(研究)	101,244	4,138	0	0	4,138	105,382	11.1
	児童日本語(貸出)	14,232	6,893	53	0	6,840	21,072	2.2
	児童外国語(研究)	1,086	126	0	0	126	1,212	0.1
	児童外国語(貸出)	68	22	0	0	22	90	0.0
	小計	116,630	11,179	53	0	11,126	127,756	13.4
K 旧分類資料	40,677	0	0	0	0	40,677	4.3	
S 地域資料	155,611	5,945	31	0	5,914	161,525	17.0	
G 外国語資料	12,574	213	0	0	213	12,787	1.3	
特別集書	葵文庫	3,586	0	0	0	0	3,586	0.4
	葵文庫複製本	225	0	0	0	0	225	0.0
	久能文庫	2,455	0	0	0	0	2,455	0.3
合計	924,278	27,632	219	0	27,413	951,691	100.0	

※比率(%)の小計及び合計は、端数処理のため合わないことがある。

〈受入数の内訳〉

(単位：冊)

区分	購入	寄贈	分類換	区分換	管理換	その他	合計
一般資料	9,548	733	12	2	0	0	10,295
児童資料	10,246	889	0	44	0	0	11,179
地域資料	1,232	3,279	783	39	0	612	5,945
外国語資料	123	90	0	0	0	0	213
合計	21,149	4,991	795	85	0	612	27,632

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※一般資料、児童資料には電子資料を含む

※地域資料のその他についてはp40を参照

(2) 視聴覚資料・電子資料・マイクロフィルム等

(単位：点)

区 分	令和4年度末 所蔵数	令和5年度受入数						令和5年度末 所蔵数	
		購入	寄贈	分類換	払出	類換	合計		
視聴覚資料	4,378	106	32	2	9	0	131	4,509	
内 訳	ビデオテープ	1,819	0	0	0	3	0	△3	1,816
	DVD	2,177	92	31	2	5	0	120	2,297
	朗読CD	382	14	1	0	1	0	14	396
電子資料	1,826	24	36	55	0	0	115	1,941	
内 訳	一般	180	0	0	0	0	0	0	180
	児童資料	31	0	22	0	0	0	22	53
	新聞雑誌	596	24	0	12	0	0	36	632
	地域資料	702	0	14	25	0	0	39	741
	貴重資料	317	0	0	18	0	0	18	335
小計	6,204	130	68	57	9	0	246	6,450	
マイクロフィルム	10,834	164	2	10	96	0	80	10,914	
内 訳	新聞雑誌	7,170	164	0	0	96	0	68	7,238
	貴重資料・地域資料等	3,664	0	2	10	0	0	12	3,676
合計	17,038	294	70	67	105	0	326	17,364	

※平成26年度から静岡県発行の刊行物は「分類換」とした。

※マイクロフィルム（地域資料） マイクロフィッシュ1点を含む。

〈除籍数の内訳〉

(単位：点)

区 分	内 訳	点 数
一般資料	所在不明資料	19
	汚破損資料	5
	価値減少資料	1
	複本資料	9
	紛失資料	2
	長期未返却資料	99
児童資料	汚破損資料	44
	長期未返却資料	9
地域資料	所在不明資料	2
	複本資料	6
	館長が除籍対象と認める資料	4
	長期未返却資料	19
視聴覚資料	汚破損資料	3
	長期未返却資料	6
マイクロフィルム	汚破損マイクロフィルム	96
合 計		324

(3) 逐次刊行物 (新聞・雑誌)

(単位：タイトル)

総タイトル数			左記のうち令和5年度継続受入タイトル数								
			購入			寄贈			合計		
雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
9,887	53	9,940	556	23	579	1,152	18	1,170	1,708	41	1,749

※内訳はp32 参照。

(4) 電子書籍

(単位：点)

分類	令和5年度末 電子書籍数
0 総記	196
1 哲学	152
2 歴史	191
3 社会科学	556
4 自然科学	259
5 技術	257
6 産業	122
7 芸術	179
8 言語	292
9 文学	52
未分類	74
合 計	2,330

4 図書班

(1) 図書資料の充実

県立図書館として必要な資料の選定は全職員で定期的に行い、速やかに発注し、受け入れた。

一般資料については、資料課・調査課・企画振興課・総務課の全職員を0類、1・2類、3類、4・5類、6・7類、8・9類の類別担当に割り振り、それぞれ選書を実施し、類別代表者による選書会議を週1回行い、発注、受入業務の効率化に努めた。令和5年度の一般資料受入冊数は10,295冊で、購入資料の平均単価は約4,423円（前年度は約4,614円）であった。受入冊数は前年度より269冊減少した。

児童資料については、全点購入（コミック、ゲーム攻略本及び学習参考書を除く）の継続と、子どもコーナー「どんぐりひろば」配架用の本や貸出用大型絵本などの複本を6,915冊受け入れた。児童資料の受入冊数は11,179冊（日本語 11,031冊）で、購入資料の平均単価は、1,818円であった。

(2) 視聴覚資料の充実

視聴覚資料は140点を受け入れた。購入資料は、継続的に収集しているシリーズの追加や自然科学や芸術関係の資料や朗読CDなどの資料を受け入れた。

(3) 図書館利用状況

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための利用制限を緩和し、対面の衝立がある机の閲覧席を元に戻した。令和6年1月からは、対面に衝立のない閲覧席を元に戻し、新型コロナウイルス感染症拡大前の状態に戻した。

ア 入館者数

令和5年度の入館者数は、152,009人で、前年度と比較して3,000人ほど増加した。

イ 登録者数

令和5年度の新規登録者数は4,565人であった。前年度と比較して、約1.4倍増加した。主な要因は、高等学校等の学年単位やクラス単位での一括利用者登録の申込みによるものである。

ウ 貸出状況

令和5年度の個人利用者への貸出点数は、p19の表のとおりである。

貸出状況は、前年度と比較して、人数では294人、点数では2,495点減少した。

(4) 予約・リクエスト・相互貸借（含協力貸出）

ア 予約・リクエストの状況

予約点数は20,321点（前年度19,171点）で、そのうちWeb予約は19,955点（前年度18,825点）と全体の9割以上を占めている。

令和5年度 予約・リクエスト受付数

	予 約	借 受	購 入	
			市町立	個人
図書・雑誌	20,167冊（19,809冊）	332冊	255冊	65冊
視 聴 覚	154点（146点）	0点	0点	0点
合計	20,321冊／点（19,955冊／点）	332冊	320冊／0点	

※予約の（ ）内は、Web予約の数

イ 相互貸借状況

県内市町立図書館への協力貸出は、6,058冊（前年度6,487冊）と減少した。県外図書館への貸出は、218件310冊（前年度214件324冊）と前年並み、公共機関等貸出については0件0冊（前年度3件70冊）であった。

県内外の図書館からの借受は、293件332冊（前年度343件360冊）と減少、うち国立国会図書館からの借受は7件7冊（前年度5件5冊）であった。

令和5年度 相互貸借件数／冊数

	貸 出	借 受
国立国会図書館	—	7件／7冊
県外図書館	218件／310冊	100件／139冊
県内市町立図書館等	(協力貸出) 6,058冊・点 図書・雑誌 6,057冊 視聴覚資料 1点	186件／186冊
県内公共機関等	0件／0冊	—

(5) 子ども図書研究室

当館では、平成13年度から児童書の収集を始め、平成15年度から児童書全点収集（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）を行っている。子ども図書研究室は、子どもの読書活動推進のために、市町立図書館や児童書研究者等へのサービス支援を目的として平成16年6月18日に開室、平成24年度にリニューアルオープンし、一部複本資料の直接貸出を開始した。

令和2年度からはグランシップ「えほんのひろば」移転に伴う、本館子どもコーナー「どんぐりひろば」開室のため、子ども図書研究室に配架していた貸出用資料を子どもコーナーに移動した。そのため平成26年から行っていた子どもへの開放は中止し、令和2年10月からの毎週日曜12時30分から16時に職員が在室し、大人への開室を行った。

令和4年度からは、土日祝日を含むすべての図書館開館日の14時から17時まで職員が在室し、開室した。

ア 収集状況

児童書蔵書数 127,756冊（令和6年3月31日現在）

イ 利用状況

密集を避けるために団体利用の人数を制限したため利用者の減少傾向は続いていたが、職員が在室する開室日を増やしたことで、前年度より利用者が増加した。

年度	開室日数	入室者総数
令和4年度	308日	879人
令和5年度	307日	998人

ウ 利用内容

- ・学校関係者：大型絵本の貸出、学校図書館での資料購入のための選書等。
- ・図書館関係者：大型絵本の貸出、仕掛け絵本購入のための選書、新刊書の内容確認、見学等。
- ・その他：所蔵資料を利用した自主的な勉強、資料展示のための相談、おはなし会等で使用する資料の選書、新刊書の検討等。

※個人の利用者に対しては継続してアンケートを行い、利用動向の把握に努めている。

エ 子ども図書研究室講演会

子どもと本を結びつける活動をしている人を支援するため、学校図書館関係者、公立図書館職員、教員、ボランティア等から一般県民（中学生を除く15歳以上）までを対象とした講演会を、年1回実施している。

令和5年度は、福音館書店の寺久保未園氏を講師に迎え、「絵本作りの過程で教わったこと」と題し、寺久保氏が編集を担当した絵本の紹介と共に、絵本作りのプロセスや絵本をつくる際に大切にしていることについてご講演いただいた。著作権の都合上、今年度は集合形式のみとした。

日 時	7月2日(日) 13:00~15:00
会 場	静岡県立中央図書館 講堂
講 師	寺久保未園 氏(福音館書店)
参加人数	94人

オ 新刊児童図書巡回展示研修会

『静岡県子ども読書活動推進計画(第三次計画)』に基づき、県内市町立図書館及び学校図書館を支援、児童資料の充実及び選書に携わる職員の資質向上を図るための研修会を実施している。当館が全点購入している新刊児童図書のうち約1,000冊を研修会場で現物展示するとともに、選書に関する研修を行い、参加者からの資料相談に応じた。

例年は県内2会場で公共図書館向けと学校図書館向けに外部講師を招き開催しているが、前年度に引き続き令和5年度は、外部講師による講座を中止し、当館職員による新刊児童図書紹介のみとした短時間の同じ内容の研修を開催した。

期 日	令和5年8月24日(木) 13:00~15:00	令和5年8月30日(水) 10:00~12:00
会 場	掛川市立中央図書館	県立中央図書館
講 師	資料課職員	資料課職員
参加人数	45人	49人

カ 子ども図書研究室だより発行 No.105(R5.6)~No.106(R5.10)

配布先: 県内市町教育委員会、県内小中高等学校、県内市町立図書館、県教育機関(三ヶ日青年の家等)、図書館協議会委員、読み聞かせネットワーク役員他

キ テーマ絵本貸出

平成23年7月より「えほんのひろば」にある絵本の利用促進を目的とした、県内市町立図書館及び県内学校図書館等に対するテーマ別絵本の貸出しを実施している。1セット20冊とし、各セットの絵本は重複しないよう配慮している。イベント等での展示や貸出しなど、実際に子どもが手にとって利用することを想定したテーマ設定を行っており、具体的なテーマは「読み継がれてきた絵本」「食べもの」「お菓子」「日本の昔話」「世界の昔話」「グリム」「犬」「猫」「ねずみ」「くま」「虫」「夜」「月」「友だち」「兄弟姉妹」「誕生日」「山」「遊び」「おえかき」「音楽」「服」「字のない絵本」と現在22ある。

令和5年度の利用実績はなかった。

ク 視察・見学等

令和5年度は視察・見学はなかった。

ケ 講師派遣事業

県内各市町立図書館及び学校図書館等における児童図書資料に関わる研修に、県立中央図書館の児童サービス担当職員を講師として派遣する事業を平成30年度から試行的に開始し、令和元年に本格実施した。

令和5年度実績 5団体 143人受講

	団体名	実施日	人数	内容
1	静岡市立長田西中学校	7月27日(木)	18	読み聞かせ入門
2	あおむしの会	7月28日(金)	32	小学校低学年から中学年と 小学校高学年から中学生
3	牧之原市教育委員会	9月15日(金)	30	小学校高学年から中学生
4	掛川市教育センター	10月18日(水)	22	読み聞かせ入門
5	浜松市立北図書館	11月22日(水)	41	小学校低学年から中学年

コ 新刊サロン

子どもの読書活動関係者に情報交換や交流の場を提供するため、職員が新刊児童図書の紹介を行い、参加者が自由に語り合う会を、平成24年度から偶数月第3水曜日(12月のみ土曜日)の午前中に開催している。

令和5年度は、前年度に引き続き、集合形式と動画配信の両方を実施した。集合形式は、参加者の要望に応えるため、第1水曜日と8月の第1土曜日に実施することとした。

動画配信は「知識の本」「読み物」「絵本」の3本に分けて作成した。集合形式は、実際に手に取って内容を確認できる、詳しく話を聞くことができる等の点で好評を得た。一方、動画配信は、当館までの距離や時間の都合で参加できなかった方も参加できる、繰り返し見られる等の点で好評を得た。

当初は全4回実施する予定だったが、都合により、全2回で終了とした。

回次	1	2	合計
実施日	6/7	8/5	
参加者	8人	11人	19人
配信期間	6/16~8/4	8/18~10/31	合計
再生回数	226回	322回	548回

サ 団体利用

「子ども図書研究室」を、全点収集資料を利用した選書会等の会場として、県内小中学校、幼稚園、保育所、ボランティアグループ等の団体に、予約制で提供している。

新型コロナウイルス感染防止のため、令和4年度までは人数を制限していたが、令和5年度から人数の制限は設けていない。

利用団体数	7団体
利用人数(延べ)	103人

シ 選定図書リストの公開

平成29年度から、子ども図書研究室の全点収集児童書のうち、子どもと本をつなぐ活動をしている方々の選書の参考になるよう、職員が選定した図書リストをウェブサイトで公開している。

令和5年度は14回211冊を選定図書として公開した。

ス 展示一覧

子ども図書研究室内に2つのスペースを設け、展示を行っている。季節の展示コーナーでは、県内市町立図書館及び学校図書館の展示に参考になるよう、少し先の季節の本を展示している。テーマ展示コーナーでは、子ども図書研究室講演会や静岡県図書館大会関連資料、課題図書等の他、その年に周年を迎える作家や作品に関連する展示を実施している。その他、著名な絵本作家等が亡くなられた際には、随時、追悼展示を行っている。

	季節の展示	テーマ展示	その他
4月	魚の本	令和4年度 静岡県優良推奨図書	/
5月		福音館書店 寺久保未園氏が編集を担当した本（講演会関連資料）	
6月	2023 夏の課題図書等		
7月		ひまわりの本	
8月	食べものの絵本		
9月		J.R.Rトールキン 没後50年	
10月	新しいクリスマスとお正月の絵本	松岡享子さんの本（静岡県図書館大会関連資料）	
11月		第35回読書感想画中央コンクール	
12月	三木卓さん追悼展示		
1月	卒園・卒業と入園・入学の絵本	令和5年度子ども図書研究室選定資料	
2月		かたつむりの本	
3月	令和6年度国語教科書掲載図書		

セ その他

- ・静岡県私立幼稚園初任者研修 講師
- ・静岡県公立幼稚園等初任者研修 講師
- ・賀茂地区図書館研究会 講師
- ・静岡県立短期大学部こども学科 講義「教育実習指導」 講師
- ・浜松学院高等学校子ども教育コース 授業 講師
- ・静岡県における子どもの読書活動推進検討委員会出席

(6) 子どもコーナー「どんぐりひろば」

子どもコーナー「どんぐりひろば」は、本館2階に位置し、一般児童書約3,000冊（読み物約2,000冊、知識の本約1,000冊）絵本約6,000冊を配架している。児童に対する直接サービス以外にも県立中央図書館移転までの新館における児童サービスの事前準備・調査・研究を行う。

おはなしかいは、令和5年度から、「どんぐりひろば」内のカーペットで実施した。

ア 利用状況

年度	開室 日数	入室者 総数	新規 登録者数	貸出 人数	貸出数			
					図書(冊)	雑誌(冊)	視聴覚 (点)	合計
令和4年度	308	8,157	191	2,246	16,977	81	2	17,060
令和5年度	307	8,569	197	2,225	15,867	59	3	15,929

※「どんぐりひろば」の利用状況は本館利用状況に含まれる

イ おはなしかい活動実績（令和5年4月～令和6年3月）

活動日	回数	参加者人数		備考
		総数	1回平均	
毎週火曜日10：30～	46	492人	10.7人	職員が実施
毎週木曜日10：30～	30	153人	5.1人	3つのボランティアグループが交代で実施
毎週木曜日15：30～	43	77人	1.8人	職員が実施
第1及び第3日曜日 10：30～	16	155人	9.7人	2つのボランティアグループが交代で実施
その他 (6/24、8/19、8/27、 10/22、10/28、 12/23、12/24、 2/17、2/24)	9	170人	18.9人	<おはなしかいスペシャル> 2つのボランティアグループが不定期で実施（1グループは絵本の読み聞かせの他、歌や芝居なども含む）。

ウ 展示一覧

	テーマ展示	簡易展示
4月	ともだちの本	はるのえほん
5月	のりものの本	おかあさんのえほん
6月	魚の本／福音館書店 寺久保未園氏が編集 を担当した本（講演会関連資料）	おとうさんのえほん
7月		あめのえほん
8月	知識の絵本	たなばたのえほん
		なつのえほん
9月	おじいさん・おばあさんの本	おつきさまのえほん
	J.R.Rトルキン 没後50年	よるのえほん
10月	おえかき、色の本	
11月	食べものの絵本	あきのえほん
12月	クリスマスの本／三木卓さん追悼展示	クリスマスのえほん
	龍と十二支の本	おしょうがつのえほん
1月	鬼と豆の本	ふゆのえほん
2月		
3月	兄弟姉妹の絵本	はるのえほん

(7) 静岡県視聴覚ライブラリー

令和5年度の視聴覚資料の受入数はなかった。

ア 資料所蔵数

(単位：点)

	令和4年度末 所蔵数	令和5年度受入数			令和5年度末 所蔵数
		購入	寄贈	合計	
16ミリフィルム	1,466	0	0	0	1,466
ビデオテープ	3,333	0	0	0	3,333
D V D	72	0	0	0	72
その他※	295	0	0	0	295
合計	5,166	0	0	0	5,166

※その他 (スライド・8ミリフィルム・カセットテープ等)

イ 貸出数

(単位：点)

	社会教育関係	学校教育関係	合計
16ミリフィルム	40	14	54
ビデオテープ	0	0	0
D V D	0	0	0
その他	0	0	0
合計	40	14	54

(8) 展示他

特集展示

隣接する美術館の展覧会テーマや当館での実施行事、時事等にあわせて展示をした。

展示期間	テーマ
令和5年4月1日～4月27日	さくら展
4月29日～6月4日	草木と花と富太郎 -牧野富太郎の植物らんまんWorld
6月6日～6月29日	R5 教科書展示 (調査課)
7月1日～7月30日	世界の祭り
8月1日～8月30日	静岡県立美術館連携展示 「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」
9月1日～9月28日	2023年 生誕100年 司馬遼太郎・池波正太郎・遠藤周作
9月30日～10月30日	読んで読んで 英語を学ぼう！ 英語多読
11月1日～12月27日	静岡県立美術館関連展示 スーパースター 大 大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派
12月1日～12月27日	どうする家康
令和6年1月5日～1月16日	静岡市美術館関連展示 高畑勲展 日本のアニメーションに遺したもの
2月1日～2月28日	山梨県立図書館連携展示 「富士山の信仰と芸術」(企画振興課)
3月1日～3月28日	静岡市美術館関連展示 スタジオジブリ特集 STUDIO GHIBLI

5 新聞雑誌班

(1) 逐次刊行物（新聞・雑誌）の充実

新聞・雑誌は、所蔵総タイトル9,940タイトルで、内1,749タイトル（購入579、寄贈1,170）を継続して収集し、保存している。そのうち、新聞は53タイトル（内41タイトル継続）である。

寄贈雑誌は48タイトルを新規に受け入れた。地域雑誌は、静岡県及び県内広域行政関係機関が発行したタイトルを積極的に受け入れている。

新聞マイクロフィルムは、静岡新聞（静岡版及び県内版替分）、中日新聞（東海本社版及び地方版）、朝日新聞（静岡版）、毎日新聞（静岡版）、読売新聞（静岡版）、日本経済新聞（地方版）を継続受入した。

（単位：タイトル）

分類	総タイトル数			左記のうち令和5年度継続受入タイトル数								
				購入			寄贈			合計		
	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計	雑誌	新聞	合計
0 総記	2,488	32	2,520	70	17	87	208	11	219	278	28	306
1 哲学	157	0	157	13	0	13	27	0	27	40	0	40
2 歴史	596	2	598	29	0	29	111	2	113	140	2	142
3 社会科学	2,589	11	2,600	149	2	151	329	3	332	478	5	483
4 自然科学	571	0	571	57	0	57	109	0	109	166	0	166
5 技術	1,100	4	1,104	104	1	105	107	2	109	211	3	214
6 産業	1,050	3	1,053	28	3	31	79	0	79	107	3	110
7 芸術	412	1	413	54	0	54	71	0	71	125	0	125
8 語学	79	0	79	9	0	9	8	0	8	17	0	17
9 文学	845	0	845	43	0	43	103	0	103	146	0	146
計	9,887	53	9,940	556	23	579	1,152	18	1,170	1,708	41	1,749

※平成17年度から改題誌もタイトル数に含む

(2) 提供情報の充実

ア 特集記事、地域雑誌の目次、静岡県関係記事・論文の電算入力

平成10年5月から特集記事の電算入力をしており、利用者端末や当館ウェブサイトからキーワードで特集記事やその掲載誌、巻号を検索できる。

イ 特集展示

雑誌の特集展示は、定期的に関覧室の雑誌コーナー及び総合案内カウンター前で行い、利用者の興味関心が高まるような展示に努めている。

展示テーマは次のとおりであり、雑誌コーナーでは、季節や社会情勢に関連したテーマ展示を、総合案内カウンター前では、新規受入雑誌や県内で発行している地域雑誌等を紹介している。

	雑誌コーナー	総合案内カウンター前
3・4月	あなたは犬派？猫派？	雑誌『JICA MAGAZINE』
5・6月	橋を架ける・渡る・愛でる	雑誌『陸上競技』
7・8月	家紋	雑誌『KURURA』
9・10月	辞書の世界	雑誌『hana 韓国語学習ジャーナル』
11・12月	ありがとうレコード芸術	雑誌『ジュニアアスリート静岡』
1・2月	知りたい！AI	雑誌『書統 たのしく書道を学ぶ雑誌』
3・4月	地図を旅する	雑誌『あんふあん 静岡版』

ウ 地域雑誌の利用促進

地域雑誌の利用を促進し、利便性を高めるために、現在は24タイトルの地域雑誌の目次の電算入力を行っている（総タイトル数44）。目次を入力した地域雑誌はそれぞれの巻号の目次一覧を見ることができ、入力されていないものに比べて書庫出納が多く、レファレンスサービスにも利用されていることから、豊富な所蔵タイトルが更に活用されるよう今後もこれらの電算入力に努める。

エ 静岡県内新聞雑誌総合目録

平成16年からWeb公開を始めた「静岡県内新聞雑誌総合目録」には、県内公立図書館の新聞・雑誌の所蔵情報が掲載されている。県内で初めて所蔵する雑誌については書誌データを当館で入力し、そのデータを基に、県内各市町立図書館（室）が自館の所蔵情報を更新する。各図書館の担当者が共通認識のもとに情報更新ができるように、令和5年度も所蔵情報の入力方法等の操作研修をYouTubeによるWeb配信で行った。

当目録は、①「おうだんくんサーチ」に参加していない図書館の所蔵状況もわかり、②共通データベースを使用しているため、検索スピードが格段に速いなどの利点がある。また、県内図書館の雑誌所蔵状況を把握できるため、レファレンスに活用するとともに、資料の購入・廃棄の際の情報源としても活用できる。各館で取り扱いが雑誌か図書かで異なる場合があるため、検索に注意を要するが、当目録の利便性がより理解され、更に広く活用されることを期待している。

(3) その他

特別整理休館時に、劣化の進んだマイクロフィルムの放酸処理やシリカゲルの交換作業を行い、資料の適切な保管に努めている。

6 一般調査班

(1) レファレンスサービス

ア 令和5年度レファレンスサービスの概要

令和5年度のレファレンス総件数は5,413件で、令和4年度より増加した。

質問形式では来館の割合が多かった。コロナによる外出・移動制限が解除され、来館による調査がしやすくなったことが要因であると考えられる。

調査種別では、所蔵・所在調査が2,945件、書誌・文献・事実調査は2,468件だった。令和4年度と比べて所蔵・所在調査の件数は増加し、書誌・文献・事実調査の件数は減少しているが、これも来館による調査が容易になり、自分で資料を調べられるようになったためと思われる。

書誌・文献・事実調査の質問内容では、静岡県に関する質問が全体の34.5%であり、分類別では、件数の多い順に2類（歴史・人物・地理）、7類（芸術・スポーツ）、0類（叢書・新聞）、3類（社会科学）となり、これらで全体の7割以上を占めた。

一般的には、所蔵・所在調査よりも書誌・文献・事実調査の方が時間と労力を必要とするが、インターネット上に多数の情報源が公開されているため、所蔵・所在調査であっても、利用者や市町立図書館でかなりの程度の調査を既に終えた上で問い合わせてきたものも多く、回答が困難なものが増えている。県立図書館としてそのような質問にも対応できるよう、レファレンススキルの向上に努めたい。

令和5年度レファレンス件数

(単位：件)

①書誌・文献・事実調査件数	2,468	うち静岡県に関するもの	851
②所蔵・所在調査件数	2,945	うち静岡県に関するもの	699
合計	5,413	うち静岡県に関するもの	1,550

イ レファレンスツールの整備

利用者が知りたいことを自分でも調べられる、有用な資料やデータベースを紹介した「本の道しるべ」と題した「テーマ別調べ案内」を作成している。これは主に当館の来館利用者に向けたもので、自由に持ち帰ることができるよう閲覧室内に配置しているほか、当館ウェブサイトでも「パスファインダー一覧」としてPDFで公開している。令和5年度はフォントをUDフォントに更新したほか、一部内容を見直し、改訂した。

ウ オンラインデータベースの充実

(ア) 導入オンラインデータベース

ジャパンナレッジLib、第一法規法情報総合データベース、TKCローライブラリー、朝日新聞クロスサーチ、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、毎索、中日新聞・東京新聞記事データベース、医中誌Web、ヨミドクター、ルーラル電子図書館、官報情報検索サービス、ざっさくプラス、JDreamⅢ、レファコレ(人物レファレンス事典plus)の15種類のデータベースを導入している。

(イ) オンラインデータベース利用実績

年/月	5/4	5	6	7	8	9	10	11	12	6/1	2	3	計
ログイン数	105	137	95	129	142	150	243	170	142	84	145	146	1,688
検索件数	2,604	3,502	3,304	4,025	3,029	5,136	2,407	6,219	7,990	2,643	6,909	10,982	58,750

※ログイン数は、第一法規法情報総合データベース、朝日新聞クロスサーチ、毎索、医中誌Web、ジャパンナレッジLib、TKCローライブラリー、JDreamⅢ、レファコレのもの。

※検索件数は、静岡新聞データベースplus日経テレコン、ヨミダス歴史館、中日・東京新聞記事データベース、ルーラル電子図書館、ざっさくプラスのもの。

(f) オンラインデータベース活用講座の実施

令和5年度は読売新聞東京本社メディア局事業部の江澤岳史氏を講師に招き、「ヨミドクター」の活用方法の講座を行った。

実施日	内容	受講者数
10月14日（土）	「ヨミドクター」の活用方法	11人

(2) 市町立図書館などへの支援

市町立図書館などにおけるレファレンス業務の充実を図るため、レファレンス業務に関する情報提供、研修として次の事業を実施した。

ア レファレンス研修の実施

静岡県教育委員会と静岡県図書館協会が主催する図書館職員研修のうち、基礎研修（レファレンス基礎研修）と専門研修（レファレンス応用研修）を一般調査班が担当した。

基礎研修は、主に図書館勤務3年目までの職員を対象にした研修で、「レファレンス概論」、「基礎的な参考図書を紹介」、「インターネットで資料を調べる」の講義と演習を行った。会場は、中部は当館、西部は静岡県総合教育センター、東部は三島市立図書館で、参加申込みの多かった中部を2グループに分け2回行う計4回の予定だったが、大雨の影響で西部会場は集合研修を中止し、オンデマンド研修となった。

応用研修は、主にレファレンス業務の経験者を対象にした研修であり、「法情報の探し方」と「レファレンス演習」の2つを行った。コロナ禍により取りやめていたグループ活動を4年ぶりに取り入れ、研修の充実を図った。

レファレンス基礎研修 実施状況

実施日	地区	受講者人数	実施日	地区	受講者数
5月12日（金）	中部	25人	5月24日（水）	東部	12人
5月17日（水）	中部	27人	6月2日（金）	西部	集合不可となったためオンデマンド対応

レファレンス応用研修 実施状況

実施日	会場	受講者数
10月20日（金）	静岡県立中央図書館	28人
10月25日（水）	静岡県立中央図書館	26人

イ 教職員対象の研修の実施

静岡県総合教育センター主催で行われた「学校図書館活用研修」「みんなでつくろう学校図書館講座」の2つの研修に一般調査班員が講師として参加した。内容は、「データベースを利用した情報収集」と「教育活動・学校図書館と著作権」を担当した。「学校図書館活用研修」は主に小中学校の教員を対象に、「みんなでつくろう学校図書館講座」は主に学校司書・学校図書館ボランティアや教員を対象に行われた。講義ではインターネット上のデータベースを利用した資料の探し方や、著作権法の基本的な事項や学校教育における著作権法の取扱い、近年の著作権法改正などについて説明をした。

実施日	内容等	受講者数
7月5日（水）	学校図書館活用研修 会場：静岡県総合教育センター	44人 (別会場6人)

9月22日（金）	みんなでつくろう学校図書館講座 会場：静岡県総合教育センター	52人
----------	-----------------------------------	-----

ウ 出前研修の実施

図書館職員向け研修への講師派遣の要望に応えるため、平成28年度以降、県内市町立図書館等による「レファレンス業務に係る研修」に一般調査班員を講師として派遣し、基礎的な内容の講義並びに演習を行う「レファレンス等出前研修」を企画・実施している。

テーマは、「レファレンス概論（インタビュー演習等を含む）」「参考図書で調べる」「資料をインターネットで探す」「図書館サービスと著作権」の4つを設定し、自由に選択できるようにしている。

令和5年度の総受講者数は176人だった。

出前研修実施状況

実施日	会場	延べ受講者数	実施日	会場	延べ受講者数
11月22日（水）	静岡市立中央図書館	33人	11月24日（金）	掛川市立中央図書館	21人
11月29日（水）	御前崎市立図書館	17人	11月30日（木）	清水町立図書館	9人
12月5日（火）	菊川市立小笠図書館	4人	12月20日（水）	島田市立島田図書館	15人
1月26日（金）	富士市立中央図書館	40人	2月1日（木）	藤枝市立駅南図書館	21人
2月29日（木）	三島市立図書館	16人			

(3) 特別取扱資料等の保存と公開

ア 特別取扱資料

当館では「葵文庫」や「久能文庫」をはじめ、地域関係の古文書などの貴重な資料を多数所蔵している。これらの特別取扱資料は、収蔵庫と貴重書庫で保管し、温度20℃、湿度50%に設定した空調設備により管理している。また、害虫対策として、令和5年度は12月18日の図書館休館日に、ブンガンとライセントを使用して収蔵庫と貴重書庫の薫蒸を実施した。

虫食いや劣化等破損の見られる資料については、職員の目視により平成23年度から計画的に修復及び保存作業を進めてきたが、デジタル化されている葵文庫・久能文庫資料について、令和2年度に専門業者による資料の破損や汚損状況の調査を行い、この調査結果をもとに、破損・汚損状況の激しい資料から順次、修復・整備し、引き続き貴重な資料の保存と公開の両立を図っていくこととした。

今年度は葵文庫の『De Geschiedenis van Oostelijk en Noordelijk Europa』を含む14タイトル21冊の修復を行った。これにより劣化度ポイント6（最高ポイント）と5がついたものの修繕が完了した。また、令和4年度に新館への引っ越しに向けての5年間の計画として中性紙保存箱への入替えを計画した。令和5年度は葵文庫のうち、和書の大部分の入替えを行った。令和6年度からは久能文庫の入替作業を行っていく予定である。

イ 貴重書の閲覧・利用状況

令和5年度は、延べ37人が計174点を閲覧した。状態の悪い資料については利用の制限をしつつ、貴重資料のデジタル化、マイクロ化を推進し、それらの複製物を活用することによって資料の保存と公開の両立を図っている。

ウ 貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化

資料の保存と公開の両立のため、貴重書のマイクロフィルム化・デジタル化を計画的に進め、デジタルライブラリーでの画像公開を行っている。

令和5年度は、初期にデジタル化したもので、特に画質が荒い絵図・地図について再撮影を行った。必要に応じて現在デジタルアーカイブで公開されているデータと入替作業を行う予定。

エ 掲載・放映許可、特別取扱資料館外貸出等

令和5年度は、当館所蔵資料の掲載（翻刻掲載を含む）または放映の申請が80件あり、前年度の65件より15件増加した。その内訳は掲載74件（前年度52件）、放映6件（同13件）であった。

また、複製許可に際して、デジタルライブラリーを通じた画像データ提供は52件（前年度55件）であった。浮世絵（『上村翁旧蔵浮世絵集』）、郷土関係資料（『九十五年前の伊豆（天保三年）』など）の申込みが例年どおり多かったが、その他では駿府城関係資料（『駿府御薬園絵図面』など）の申込みが多かった。

なお、展示等による館外貸出については次の8件（86点）を許可した。

施設	催事名等	資料名
藤枝市郷土博物館・文学館	藤枝市郷土博物館特別展 『徳川家康と田中城』～家康の天下取りを支えた西駿河の人々～	『駿府御薬園絵図面』他 全2点
静岡市歴史博物館	静岡市歴史博物館企画展示 『駿府の華 静岡浅間神社』	『なをりその記 [一]』
静岡市美術館	NHK大河ドラマ特別展 『どうする家康』	『群書治要 47冊』 『春秋公羊伝 2冊』 全49点
静岡市歴史博物館	静岡市歴史博物館企画展示 『駿府城と徳川家康』	『駿国雑誌』他 全7点
静岡文化芸術大学	静岡文化芸術大学 ギャラリー 『まぼろしの祝祭』～天竜横山の神遊び～	『遠江国風土記伝』他 全3点
静岡市東海道広重美術館	静岡市東海道広重美術館企画展 『浮世絵花ごよみ ～浮世絵で楽しむ江戸の花～』	『上村翁旧蔵浮世絵集』他 全5件 20点
静岡市三保松原文化創造センター	静岡市三保松原文化創造センター企画展Ⅲ『浮世絵で楽しむ三保松原』	『百富士』他 全2点
静岡市歴史博物館	静岡市歴史博物館企画展示 『清水 交流の道』	『駿国雑誌』他 全2点

オ 貴重書常設展示

平成23年1月に閲覧室内に開設した貴重書常設展示コーナー「『しずおか』の貴重書」を、令和5年度も継続して実施した。ブラウジング入口付近の横型ケースを使用して、毎回3～5点の資料を展示した。所蔵する貴重資料を毎月入れ替え、多くの利用者に親しみをもってもらえるよう、わかりやすい内容紹介パネルの作成を心掛けた。また、内容解説と関連図書の紹介を掲載したパンフレット『温故知新』を作成・配布し、併せて関連図書を展示・配架した。このコーナーは地域調査班と協力し、調査課全体の企画として実施した。展示期間及び展示品は以下のとおりである。

実施日	企画名	展示品
令和5年 3月1日 ～ 4月27日	熟読 学問のすすめ	『学問のスゝメ』
4月29日 ～ 5月30日	新茶の季節	『製茶新説』『茶務僉載』『皇国製茶図会』

6月1日～6月29日	江戸の数学	『新編塵劫記』『算法点竄指南録』他
7月1日～8月30日	夏の風物詩	浮世絵『江戸名所両国橋花火』他
9月1日～9月28日	安政の大地震	『安政見聞誌』『万留帳』『地震関係資料』
9月30日～10月29日	家康ゆかりの書物	『右文故事』『春秋公羊伝』『群書治要』
11月1日～11月29日	万延元年の遣米使節	『The law of nations』『亞墨利加紀行』他
12月1日～令和6年1月16日	中村正直と静岡	『西国立志編』『自由之理』『中村正直伝』他
2月1日～2月28日	2月23日は富士山の日	『富嶽百景』『やをかの日記』『東海道名所図会』
3月1日～4月29日	採撰亭版	『稲川詩草』『駿河府志』『西河折妄』他

カ 貴重書講座・見学

(7) 貴重書講座

演題 「欧米への江戸幕府の眼差し—葵文庫の洋書を中心に—」

講師 岡部 幹彦 氏（文化審議会文化財部会第一専門調査会委員、元文化庁主任文化財調査官（歴史資料部門））

実施日 令和5年10月21日（土） 参加者 54人

貴重書講座は、例年、当館の主催事業として葵文庫の会（※）会員に講師を依頼して開催しているが、今年度は東アジア文化都市2023静岡県のイベントとして葵文庫の会が主催する貴重書講座スペシャルに当館が協力する形で開催した。

講師は、長年、美術工芸品の国宝・重文指定等に関わってこられた岡部幹彦氏で、暦と地図を軸に、当館所蔵の特殊コレクション葵文庫の資料も取り上げながら、江戸幕府の欧米への関心についてひもといていただいた。参加者アンケートも好評で、「葵文庫の資料とその背景がよくわかり有意義だった」「当時の静岡学問所についても知りたいと思った」等の感想があり、文化的な講座を求める県民へのアピールができた。

当日は講演のほかにも、同じく東アジア文化都市2023静岡県の事業として制作された当館貴重書の紹介動画も初公開され、図書館資料と利用者をつなぐという意味でも有意義な講座となった。

（※）「葵文庫の会」：葵文庫について調査、研究している研究者等から構成される団体。

(4) 貴重書紹介講座（図書館見学）

随時実施する図書館見学は、特に大学生の授業の一環として葵文庫・久能文庫等の解説、『論語』（葵文庫）などの展示を行い、資料を間近で見ることによって将来を担う学生・生徒に見聞を広めてもらうことを目的としている。

令和元年度は全国の中世史研究者による中世史サマーセミナーの一環として、当館の見学が組み込まれるなど、研究者や学生の研究に役立てることができたが、令和2年度以降はコロナ禍のため、予定した大学生の見学等は全て中止となった。行動制限がなくなった令和5年度も実施がなかった。

(4) 障害者サービス

サービスの提供については、今年度は新たに3人の障害者利用登録と2人のサピエ図書館登録、6件17冊の郵送貸出サービスの利用があった。資料・環境の整備については、「読書バリアフリーの理論と実践～公立図書館に求められる環境づくりとサービス～」のテーマで外部講師を招いて館内職員研修を行い、読書バリアフ

リーに関する近年の動向や障害者のニーズなどを学んだほか、令和6年度以降に新館用として購入する障害者サービス用資料の下調べを行った。

(5) その他の関連事業

ア 点訳音訳奉仕員養成講習会

静岡県視覚障害者情報支援センターが主催する点訳音訳奉仕員養成講座のプログラムの1つとして「調査・レファレンス講習会」を一般調査班で担当している。音訳や点訳に不可欠な「読み」の調査方法を、人名・地名、書名・作品名などの読みを調べる基本参考図書を紹介しながら、例題や演習問題を交えて解説した。受講者は県内各地で音訳・点訳ボランティアとして活躍する方々で、それぞれ真剣に取り組んでいただいた。実施日、受講者数は以下のとおりである。

実施日	会場	受講者数
11月7日(火)	静岡県立中央図書館	12人

イ 関係機関との連携など

「葵文庫の会」会員との連絡会を令和5年10月21日(土)に実施した。図書館からは、貴重書の利用状況、デジタル化の現状、貴重書の常設展示等について報告した。その後、来年度の貴重書講座の予定及び講師依頼等について協議し、貴重書等についての情報交換を行った。

ウ 郵送複写サービス

当館では、来館が難しい県民に対し所蔵資料の郵送複写サービスを行っており、県外の利用者からの申込みは、当館のみが所蔵する資料及び静岡県に関する資料(地域資料)に限り受け付けている。令和5年度は、年間の依頼申込みは97件1,428枚(内マイクロフィルムは6件26枚)であった。

7 地域調査班

(1) 地域資料の充実

当館では、静岡県に關係する全分野の資料及び静岡県出身者・在住者の著作物を積極的に収集している。令和5年度の地域資料の受入・蔵書冊数は以下のとおりである。地域資料の収集にあたっては、新刊書、古書のほか、通常の流通ルートでは入手しにくい個人・団体の出版物や県・市町の行政刊行物等についても、発行者に入手方法の問合せや寄贈依頼を行うなどして、収集に漏れのないよう努めている。収集部数は、1資料につき2部を原則とし、1部を貸出閲覧用、1部を永久保存用としている。

(単位：冊)

分類	令和4年度末蔵書数	令和5年度受入冊数（増減数）							令和5年度末蔵書数	
		購入	寄贈	分類換	区分換 ・管理換 ・その他	類換	除籍数	計	蔵書数	比率 (%)
0 総記	14,406	282	366	47	612	△6	2	1,299	15,705	9.7
1 哲学	1,786	24	22	0	0	0	0	46	1,832	1.1
2 歴史	30,215	275	768	42	4	12	14	1,087	31,302	19.4
3 社会科学	50,672	205	1,048	424	0	1	7	1,671	52,343	32.4
4 自然科学	7,400	14	173	35	0	0	0	222	7,622	4.7
5 技術	11,013	44	192	84	0	3	4	319	11,332	7.0
6 産業	15,830	76	151	115	0	0	0	342	16,172	10.0
7 芸術	8,789	75	300	32	0	△12	0	395	9,184	5.7
8 言語	522	3	10	4	0	0	0	17	539	0.3
9 文学	14,978	234	249	0	35	2	4	516	15,494	9.6
合計	155,611	1,232	3,279	783	651	0	31	5,914	161,525	100.0

※比率(%)の合計は、端数処理のため合わないことがある。

※令和5年度受入冊数のうち「その他」612点は、これまで1点として蔵書システムに登録してきた『駿河国駿東郡原宿渡辺家文書』1,555点のうち、デジタル化に伴い個別に登録を行ったものを計上した。

(2) 提供情報の充実

ア 目次情報の入力

地域資料の書誌データ作成に際し、目次情報が検索キーワードとして有効と考えられるものについては、目次情報の入力も行っている。当館のレファレンス件数の3割弱が静岡県に関する質問であり、この目次データはレファレンス時の有用なツールとして活用されている。また、過去に作成した書誌には目次データが未入力となっているものがあるため、遡及入力も継続的に行っている。

イ 二次資料の作成

令和6年度改訂予定の『地域学習に役立つ図書リスト』について、利用対象者や「地域の発展に尽くした先人」の一覧を作成するなどして、令和6年度夏休み前に改訂ができるよう準備を行った。

(3) 資料展示

ア 貴重書常設展示

貴重書常設展示および展示内容については、「6 一般調査班」における「(3) 特別取扱資料等の保存と公開」の「オ 貴重書常設展示」の項目を参照。

イ 地域資料の展示

新たに受け入れた地域資料は、新着地域資料コーナーに展示し、来館者への周知を図っている。

また、「地域資料特集展示コーナー もっと知りたい！ふじのくに」では、時事に合わせたテーマと共に、書架の位置等で目に付きにくい分野をテーマに設定するなど、地域資料の周知や利用促進を図っている。

令和5年度の展示内容は以下のとおりである。

期 間	内 容
令和5年 3月1日～4月27日	第20回静岡県自費出版大賞（令和4年度から継続）
4月29日～6月4日	Jリーグ30th×静岡
6月6日～7月17日	さくらももこの世界
7月19日～8月30日	地域のことを調べてみよう
9月1日～10月15日	ふじのくには缶詰の国
10月17日～11月29日	<small>ふじのくに</small> 静岡県の文化財
12月1日～12月27日	静岡県の柑橘類
令和6年 1月5日～2月28日	静岡の温泉と文豪
3月1日～4月28日	ふじのくにの絵本作家 鈴木 まもる氏 竹下 文子氏

(4) 市町立図書館への支援

ア 地域資料MARCの提供

県内市町立図書館等における地域資料の書誌作成業務の軽減化と県内地域資料の書誌データの標準化を図るため、当館で作成した地域資料の書誌データを地域資料MARCとして提供している。地域資料MARCは作成後、ただちに図書館ウェブサイト公開されるようになっており、各図書館をはじめ、個人でもダウンロードすることが可能である。書誌データとともに目次データもダウンロードできるため、レファレンス、地域資料の選書などにも活用することができる。

イ 運営相談等

県内市町立図書館等からの地域資料の収集・整理方法に関する相談に対応している。

また、地域資料の保存図書館として、各館等の事情で不要となった地域資料のうち、当館未所蔵資料の受入れを行っている。

(5) 地域資料のデジタル化

地域資料のデジタル化は、当館の重点取組事業として積極的に推進している。毎年、近世・近代の地誌や絵葉書などについてデジタル化・マイクロフィルム化を行い、当館デジタルライブラリーで一般公開を行うほか、虫食いや劣化破損等の見られる資料の修繕を行っている。また、地域貴重資料のデジタル化優先順位を決めるため、貴重資料調査委員会を開催し、今後のデジタル化計画を作成した。

平成27年度から、県及び市町発行の行政刊行物等のPDFファイルも収集・公開を行っている。令和3年度には、これらPDFファイルの収集を自動的・網羅的に行うクローラの開発も行った。

令和5年度に行った事業は次のとおりである。

事業	内訳	点数	内 訳
デジタル ライブラリー 登録・公開	自館作成分	15タイトル	地域資料：『静岡縣全圖』『静岡県勢一斑 昭和3年』『静岡県勢要覧 昭和22年』他
	業務委託分	619タイトル	貴重資料：『大井家日記』『[駿府定番手控]』他
	行政資料	177点	静岡県及び市町発行の行政資料を公開
デジタル化 マイクロフィルム化		58タイトル	貴重資料：『駿河国雑誌』『なをりその記』他
修繕		11タイトル	貴重資料：『静岡市史編さん資料 御大名様御泊帳』『御年頭日記』他

(6) 地域貴重資料の保存

令和4年度に策定した新館移転に向けた貴重資料の保存計画を基に、令和5年度は地域貴重資料の保存容器の作成及びドライクリーニングを実施した。

(7) 地域視聴覚資料の媒体変換

所蔵するVHSビデオテープのうち、静岡県関係の情報が含まれる資料について調査を進めていたが、令和5年度に媒体変換計画を策定した。また、対象となる676点について、資料保存のための複製としてDVDに媒体変換を行った。

(8) 歴史文化情報センター

12 歴史文化情報センター (p65参照)

8 企画班

(1) 図書館職員研修

ア 基礎研修

(7) 図書館基礎研修

期日・会場	4月14日（金）・オンライン（ライブ配信）開催	
参加人数	121人	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館職員の基礎知識」 静岡県立中央図書館職員 ・「図書館サービスと著作権 概論」 静岡県立中央図書館 調査課職員 ・県立中央図書館見学（YouTube 動画視聴） ・情報交換 	

(イ) おうだんくん基礎研修

期 日	配信期間 4月1日（土）～3月8日（金）	
会 場	YouTube によるオンデマンド開催	
参加人数	総再生回数 654回	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「おうだんくんシステム、ポータル」 静岡県立中央図書館 企画振興課企画班職員 ・「おうだんくんコミュ」 同企画振興課企画班職員 ・「静岡県の図書館」 同企画振興課振興班職員 ・「静岡県新聞雑誌総合目録」 同資料課新聞雑誌班職員 ・「静岡県地域資料書誌提供システム」 同調査課地域調査班職員 ・「おうだんくんサーチ」 同企画振興課企画班職員 ・「相互貸借の基本」 同企画振興課振興班職員 ・「おうだんくん ILL」 同資料課図書班職員 	

(ウ) レファレンス基礎研修

期 日	5月12日（金）	5月17日（水）	5月24日（水）	6月2日（金）
会 場	静岡県立中央図書館 会議室		三島市立図書館 （生涯学習センター） 研修室・パソコン教室	静岡県総合教育センター （あすなろ） 情報研修室
参加人数	25人	27人	12人	集合研修中止 （動画視聴で代替）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「レファレンス概論」 ・「基礎的な参考図書の紹介」 ・問題演習、解説 ・「インターネットで資料を調べる」 <p style="text-align: right;">静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員</p>			

イ 専門研修

(7) 図書館広報研修

期日・会場	6月23日（金）・静岡県立中央図書館 中集会室	
参加人数	36人	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝わるチラシデザイン講座」 東京都杉並区広報専門監・静岡県知事戦略局広報アドバイザー 谷 浩明 氏 ・情報交換 	

(イ) 大学・専門図書館研修

期日・会場	9月7日(木)・静岡県立中央図書館 中集会室	
参加人数	31人	
内 容	・「患者さんに還元する司書—こども病院での30年を踏まえて」 元静岡県立こども病院医学図書室医学司書 塚田 薫代 氏 ・ゲストスピーカー (NPO法人・障がい当事者) によるお話 ・こども病院エピソード、ブックトーク (事例報告) ・情報交換	

(ウ) レファレンス応用研修

期 日	10月20日(金)	10月25日(水)
会 場	静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	28人	26人
内 容	・「法情報の探し方」 ・「レファレンス演習」 静岡県立中央図書館 調査課一般調査班職員	

(エ) 資料保存研修

期日・会場	11月22日(水)・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	60人	
内 容	・「図書修理研修会(絵本)～ページが取れたときの直し方～」 キハラ株式会社製本講座講師 川人 拓 氏 ・情報交換 ※午前午後同内容を2回実施	

(オ) 図書館サービス研修

期日・会場	10月12日(木)・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	30人	
内 容	・「デジタルアーカイブの構築・デジタルデータの保存について」 国立国会図書館関西館電子図書館課 岡本 常将 氏 ・「静岡県立中央図書館デジタルライブラリーについて」 静岡県立中央図書館職員 ・「静岡市立図書館電子図書館導入の道程について」 静岡市立中央図書館副館長 田中 邦子 氏 ・情報交換	

(カ) 児童・青少年サービス研修

期日・会場	12月8日(金)・静岡県立中央図書館 会議室	
参加人数	42人	
内 容	・子ども図書研究室見学 ※希望者のみ ・「図書館がカラフルな学びの場になるために図書館員ができること」 神奈川県立新羽高等学校再任用学校司書 松田 ユリ子 氏 ・情報交換	

ウ 運営研修

(7) 館長研修会

期日・会場	4月25日（火）・オンライン（ライブ配信）開催
参加人数	50人
内 容	・「これからの図書館と経営戦略」 筑波大学図書館情報メディア系准教授 小泉 公乃 氏

(イ) 図書館運営研修

期日・会場	7月20日（木）・静岡県立中央図書館 中集会室
参加人数	33人
内 容	・「「学び」としての「まち育て」活動を図書館からはじめる －AI時代の地域学習とコミュニティの展望－」 京都橘大学教授 嶋田 学 氏 ・情報交換

エ 特別研修

図書館情報交換会

期日・会場	9月14日（木）・藤枝市立岡出山図書館
参加人数	16人
内 容	・藤枝市立図書館事例報告（そらいろ図書館） ・会場館見学 ・情報交換

(2) 利用者からの意見

ア 提案ボックス

「提案ボックス」を設置することによって、利用者からの意見・要望をいち早く収集し、利用者が必要とする情報の提供や、利用者の声を図書館運営に反映するよう努めた。

「提案ボックス」件数統計

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提案件数	2	1	2	0	1	2	0	0	1	0	0	1	10
回答・改善 件数	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	5

提案件数は、昨年度から16件減少し10件となった。内容は施設設備に関するものが多く、老朽化にともない改善が難しい提案も少なくない。早期回答を心がける一方、サービスに関する提案はなるべく改善に繋げるよう努めた。

イ 利用者実態調査

(7) 調査の概要

当館では、平成9年度から継続的に利用者に対してアンケートを実施し、利用者の来館目的や利用資料等について調査してきた。

令和3年度からは、これまで来館者に対して紙で行っていたアンケートを廃止し、ふじのくに電子申請サービスを利用し、電子申請でアンケートを行っている。集計作業の効率化や、市外利用者(市町受取サービス利用者等)、当館を利用したことがない人等から多く意見を集めることなど、電子申請のメリットを生かしたアンケートを実施することができた。

(イ) 調査期間

11月1日(水)～11月30日(木) 30日間

(ウ) 分析結果

【付属資料】「令和5年度『静岡県立中央図書館アンケート』集計結果」(p54-55)

(3) イベント等

ア 図書館講座、講演会等

(7) 図書館講座 葵レク (集合開催)

開催日	内容	講師	募集	応募	参加
6月7日(水) *オンデマンド配信 6月16日(金)～8月4日(金)	新刊サロン①	当館職員	—	7人	8人 226回
8月5日(土) *オンデマンド配信 8月18日(金)～10月31日(火)	新刊サロン②	当館職員	—	9人	11人 322回
10月14日(土)	オンラインデータベース活用講座 いつでも頼れる心強い味方！読売新聞の医療・健康・介護情報データベース「ヨミドクター」を活用しよう！&静岡県立中央図書館の健康・医療情報の探し方	江澤 岳史 氏 (読売新聞東京本社メディア局事業部) 当館職員	20人	10人	11人
10月21日(土)	貴重書講座スペシャル 東アジア文化都市 2023 静岡県専門協働プログラム 「欧米への江戸幕府の眼差し—葵文庫の洋書を中心に—」&貴重書等紹介動画公開	岡部 幹彦 氏 (元文化庁主任文化財調査官)	200人	71人	54人
11月3日(金・祝) 1日2回開催	ロボットプログラミング教室	(株)タミヤ職員	20人	23人	14人
11月26日(日)	城址講座 徳川家康の城～家康の城造りの変遷～	加藤 理文 氏 (公益財団法人日本城郭協会理事)	150人	196人	148人
2月23日(金・祝)	「文化の丘」探究学習 (子ども向け iPad 講座)	一般社団法人草薙カルテッド職員	10人	7人	6人

2月25日(日)	健康医療情報講演会 歯周病の予防と治療 ～ふじのくにの健康長寿 にもつながる～	吉田 直樹 氏 (静岡県立大学 短期大学部歯科 衛生学科教授)	50人	37人	26人
----------	--	--	-----	-----	-----

(イ) 子ども図書研究室講演会(集合開催)

開催日	内容	講師	募集	応募	参加
7月2日(日)	絵本作りの過程で教わったこと	寺久保 未園 氏 (福音館書店)	200人	116人	94人

(ウ) Library Concert(図書館コンサート)

開催日	内容	演奏・レダゲート	募集	応募	参加
10月28日(土) 閉館後に開催	チャイコフスキーのバレエ音楽 「くるみ割り人形」より抜粋の演奏 及び当館所蔵の関連本の紹介 (会場: 閲覧室)	静岡県立清水南 高等学校芸術科 音楽専攻生徒	50人	61人	57人

イ 展示

期 間	名 称	連携機関等	開催場所
3月7日(火) ～4月27日(木)	JICA海外協力隊写真展	JICA静岡県デスク	展示室
3月7日(火) ～4月27日(木)	さくら写真展	静岡県さくらの会	インフォメーションホール
6月1日(木) ～7月30日(日)	あいのうた～出会いから子育て までの短歌コンテスト～受賞 作品展示会	県子ども未来課	閲覧室
7月19日(水) ～8月30日(水)	草薙神社龍勢花火展	草薙神社龍勢保存会	展示室
7月11日(火) ～8月30日(水)	ユニバーサルデザイン絵本作 品展	静岡文化芸術大学	総合案内カウンター前
8月1日(火) ～8月6日(日)	統計グラフコンクール作品展	県データ活用推進課	インフォメーションホール
8月8日(火) ～9月28日(木)	海洋プラスチックごみ防止「6 R県民運動」展	県廃棄物リサイクル 課	インフォメーションホール
10月17日(火) ～11月5日(日)	チャイコフスキーのバレエ音 楽資料展示	館内企画	総合案内カウンター前
10月17日(火) ～11月5日(日)	「無形民俗文化財の保存と伝 承」－「風流踊」のユネスコ無 形文化遺産登録を記念して－	県文書課	インフォメーションホール
11月7日(火) ～12月3日(日)	「犯罪被害者週間」企画展示	県くらし交通安全課	インフォメーションホール
12月6日(水) ～1月16日(火)	静岡書店大賞展	館内企画	総合案内カウンター前

2月1日(木) ～2月28日(水)	静岡県立中央図書館・山梨県立図書館連携展示「富士山の信仰と芸術」	山梨県立図書館	総合案内カウンター前
2月1日(木) ～2月28日(水)	静岡発! 昭和の幼児指導絵本『あそび』展	平野 雅彦 氏 (元静岡大学客員教授)	展示室
2月6日(火) ～2月28日(水)	防犯性の高い建築部品等の普及展示	県警生活安全企画課	インフォメーションホール
2月6日(火) ～2月18日(日)	静岡県景観賞パネル展	県都市計画課	閲覧室
3月5日(火) ～3月28日(木)	優良図書展示	県社会教育課	総合案内カウンター前
3月5日(火) ～4月29日(月・祝)	JICA海外協力隊写真展	JICA静岡県デスク	展示室
3月19日(火) ～3月28日(木)	静岡どぼくら紹介展示	県建設政策課	閲覧室
3月30日(土) ～4月29日(月・祝)	さくら写真展	静岡県さくらの会	インフォメーションホール

ウ 図書館特別企画

(7) 夏休み子ども図書ウィーク

・開催期間 令和5年7月29日(土)～8月4日(金)

開催日	内容	講師等	募集	応募	参加
7月29日(土)	ユニバーサルデザイン絵本手作り教室	林 左和子氏 (静岡文化芸術大学)	20人	12人	9人
8月1日(火)	ふじっぴーの親子グラフ教室	県データ活用推進課	20人	6人	6人
8月2日(水)	親子自然観察教室	小川 滋之 氏 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)	20人	14人	13人
8月3日(木)	プログラミング教室	(株)テクノサイト 静岡県立島田商業高等学校	20人	21人	14人
8月4日(金)	折り紙遊び教室	静岡県読み聞かせネットワーク	15人	15人	18人

(イ) ふじのくに文化の丘フェスタ

・開催期間 令和5年10月17日(火)～11月5日(日)

開催日	内容	講師・連携機関等	備考
10月17日(火) ～11月5日(日)	「無形民俗文化財の保存と伝承」－「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録を記念して－	県文書課	展示
10月21日(土)	貴重書講座スペシャル 「欧米への江戸幕府の眼差し－ 葵文庫の洋書を中心に－」 &貴重書等紹介動画公開	岡部 幹彦 氏 (元文化庁主任文化財調査官)	葵レク 東アジア文化都市2023静岡 県専門協働プログラム
10月28日(土)	Library Concert (図書館コンサート)	静岡県立清水南高等学校芸術科音楽専攻生徒	特別企画

10月17日(火) ～11月5日(日)	チャイコフスキーのバレエ音楽資料展示		展示
10月28日(土)	静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会 「戦後日本の絵本出版の到達点～希代の出版人松居直の仕事に則して」	古川 信夫 氏 (福音館書店元編集者)	
11月3日 (金・祝)	ロボットプログラミング教室	株タミヤ職員	葵レク
10月17日(火) ～11月5日(日)	文化の丘スタンプラリー(後日抽選)	ムセイオン静岡	応募総数97通

(4) 図書館サポーター

ア 登録状況(過去3年)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
読み聞かせ	20人	23人	24人
館内サービス	2人	2人	1人
環境	1人	1人	2人

イ 活動内容

- 読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施など。
館内サービス : 生涯学習等の発表。呈茶や資料紹介ポップ作成等。
環境 : 生け花や手工芸品の展示による館内装飾など。

ウ 活動実績

- 読み聞かせ : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における「おはなしかい」の実施。
(活動実績p29-30参照)
館内サービス : インフォメーションホールにおける呈茶サービスの実施(2回)。
環境 : 子どもコーナー「どんぐりひろば」における壁面装飾。

(5) 職場体験学習等

ア 職場体験学習

(7) 図書館主催

校種等	7月25日(火) ～7月26日(水)	8月8日(火) ～8月9日(水)	合計
中学生	10人	8人	18人
高校生	18人	21人	39人
合計	28人	29人	57人

(イ) 個別申込

学校名	5月23日(火) ～5月24日(水)	合計
静岡市立清水第四中学校	6人	6人
合計	6人	6人

イ インターンシップ（大学生）

(7) 図書館主催 受入れなし

(4) 県主催

期間	大学・学部名	人数
8月23日（水）	静岡大学情報学部	1人
	常葉大学教育学部	1人
	京都教育大学教育学部	1人
	静岡文化芸術大学文化政策学部	1人
合計		4人

ウ 社会体験研修（中堅教諭等資質向上研修（I期））

・実施日 8月2日（水）・23日（水）、県立高等学校教諭1人

エ 施設見学・視察

校種等	校数・団体数	人数（引率者含む）
小学校	2	102人
中学校	1	2人
高等学校	1	1人
大学・短大	1	4人
図書館・県関係者	1	2人
合計	6	111人

(6) 図書館広報

ア 静岡県立中央図書館だより（文化の丘）

年2回（9月初旬、2月初旬）発行。当館の事業（サービスや講座など）を広報し、図書館利用の促進を図った。

No. 374（令和5年9月）・No. 375（令和6年2月）発行 各2,000部

配布先：県内教育委員会、県内市町立図書館等

イ 当館ウェブサイトの運用等

一般利用者向けウェブサイトや県内図書館向け「おうだんくんシステム」の各種サービスを滞りなく運用・提供した。

ウ 公式X（旧Twitter）の運用

令和2年7月からTwitterによる広報を試行し、同年8月1日から本格運用を開始した。令和5年度末現在、投稿数は1,291回、フォロワー数は1,217アカウントである。

エ 「ヒガナンフェスティバル」への参加

県スポーツ・文化観光部企画政策課が令和5年11月23日（木・祝）にグランシップ大ホール等で実施したイベントに出張図書館として参加し、本の展示、利用者登録の案内のほか電子図書館の広報を行った。また、新館移転について新図書館整備課と協力し、同じブース内で積極的に広報を実施した。

(7) ムセイオン静岡

ア 趣旨

ムセイオン静岡とは、静岡県立中央図書館、静岡県立大学、静岡県立美術館、静岡県埋蔵文化財センター、静岡県コンベンションアーツセンター“グランシップ”、静岡県舞台芸術センター（SPAC）及びふじのくに地球環境史ミュージアムの7つの教育文化機関による自主協働プログラム。静岡市の谷田の丘陵地帯及びその周辺地域を、本県の文化振興やまちづくりに貢献する地域に発展させるため、平成21年3月に「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結し、相互に協力して文化を創造し、国内外に発信する活動を展開している。「ムセイオン」は、“Museum”（博物館、美術館）の語源で、「学堂」を意味する。当初は4機関で始まり、平成21年度に2機関、平成28年度に1機関が加わり、現在の7機関となった。

なお、事務局は平成28年度から静岡県立大学が担当していたが、令和4年度からは輪番制となり、令和5年度は当館が担当した。

イ 令和5年度事業実績

イベント等

<共通イベント>

- ・「ふじのくに文化の丘フェスタ2023」（10月17日～11月5日）

<連携イベント>

- ・8月2日 夏休み子ども図書ウィーク「親子自然観察教室」（会場：当館、講師：ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授）
- ・8月12日 「出張おはなしかい」（会場：県立美術館、講師：当館司書）

(8) 浙江図書館との友好提携

ア 経緯

平成4年、静岡県・浙江省友好提携10周年を機に浙江省から静岡県に図書が寄贈され、寄贈図書は当館に所蔵されている。その後、県内図書館職員等の有志が浙江図書館を訪れ、親交を結んできた。さらに、浙江省からの技術研修員受入れや当館の調査団派遣等を経て、平成21年2月、浙江省教育交流訪日団来静を機に、「静岡県立中央図書館と浙江図書館との友好提携書」を締結。平成21年度以降の図書交換等の交流事業について定めた。

イ 令和5年度の実績

(7) 上記の友好提携に基づく図書交換

寄贈：30冊及び当館刊行物等、受贈：31冊及び逐次刊行物3タイトル（静岡県、浙江省の生活・文化が理解できる写真やイラストが豊富に含まれた資料を中心に交換）

(4) 受贈図書の「浙江省文庫」への配架

(9) 山梨県立図書館との連携協定

ア 趣旨

富士山の文化振興に貢献するため平成27年6月、「山梨県立図書館と静岡県立中央図書館との富士山関係資料に関する連携協定」を締結。両館で所蔵する富士山関係資料を相互に活用できる環境を整えるとともに、富士山の自然、文化を情報発信している。また、令和3年6月の期間更新に際して、連携及び協力を通じて両館の発展に資することが目的に加えられた。

イ 令和5年度事業実績

(7) 連携推進協議会

- ・第1回（6月20日 山梨県立図書館）
- ・第2回（2月2日 静岡県立中央図書館）

(イ) 静岡県・山梨県関係資料の相互利用による企画展示

- ・富士山世界文化遺産登録10周年記念「富士山の信仰と芸術」
（2月1日～2月28日・静岡県立中央図書館、2月16日～3月17日・山梨県立図書館）

(10) 市町立図書館等受取サービス

当館の資料を全県民が活用しやすい環境を整備し、県民の学習活動及び文化の向上に寄与することを目的として、「インターネット予約による市町立図書館等受取サービス」を行っている。

平成27年10月から受取館4館で先行導入し、平成28年6月に受取館を拡大して本格導入に移行をした。以降、順次受取館を拡大している。なお、サービス導入にあわせて貸出カードの郵送申込みを可能にしたほか、令和3年度からはWeb上での利用者登録の申込みも可能にした。

令和5年度利用実績（遠隔地貸出資料数）

区 分	延べ利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)	対応時期
伊東市立伊東図書館	91	252	H28.6～
松崎町立図書館	18	66	R4.5～
下田市立図書館	60	165	R2.12～
函南町立図書館	121	511	H27.10～
三島市立図書館	235	852	H28.6～
沼津市立図書館	143	545	H28.6～
富士市立中央図書館	113	299	H28.6～
富士宮市立中央図書館	82	321	H27.10～
裾野市立鈴木図書館	65	259	R4.5～
御殿場市立図書館	95	485	R5.7～
藤枝市立駅南図書館	330	1,031	H28.6～
焼津市立焼津図書館	213	646	R2.12～
島田市立島田図書館	50	168	R5.7～
掛川市立中央図書館	161	726	H28.6～
磐田市立中央図書館	326	1,163	H27.10～
袋井市立袋井図書館	112	333	R4.5～
浜松市立城北図書館	517	2,316	H27.10～
湖西市立中央図書館	51	149	R2.12～
県総合教育センター図書室	9	18	H28.6～
静岡県庁(県民サービスセンター)	286	945	R3.4～
合 計	3,078	11,250	

(11) 図書館DX

ア 貸出カード（バーコード）のスマートフォン表示

当館Webサイトのマイライブラリーにログインすることにより、貸出カードのバーコードをスマートフォン等に表示して、貸出時等に利用することができる。令和3年9月1日に開始した。令和5年度のバーコード表示回数は6,456回である。

イ 利用者登録等Web申込

利用者登録の手続きをWeb上で完結することができる。令和3年10月1日に開始した。令和5年度は静岡県内各学校（小学校を除く）に在籍している生徒等を対象に、クラス単位、学年単位または学校単位での申込みの募集を行い、申込みのあった12校について一括登録を実施した（Webによる登録者数p19参照）。

ウ 電子図書館

当館に登録している利用者であれば、当館Webサイトのマイライブラリーで電子書籍を閲覧することができる。令和3年10月1日に開始した（電子図書館利用状況p21、電子書籍数p24参照）。

エ 県市町発行PDFファイル自動収集（クローリング）

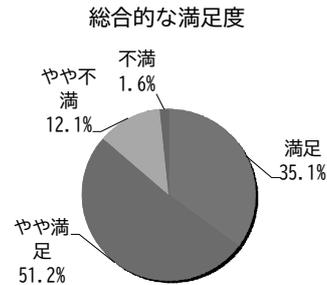
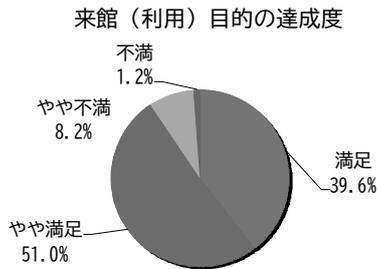
静岡県及び県内各市町が発行し、ホームページで公開しているPDFファイルについて、クローリング技術を用いて全収集を行う。令和4年3月に収集を開始した。令和5年度末時点の収集実績は1,898,681件である。

令和5年度「静岡県立中央図書館アンケート」集計結果 実施：令和5年11月1日(水)～11月30日(木) 有効回答数：319

うち、当館のサービスを利用したことがある：252

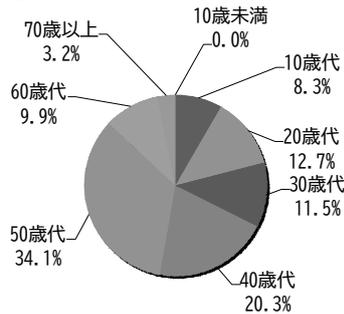
【質問1】当館の満足度

質問	満足	やや満足	やや不満	不満	合計	満足+やや満足	対R4比	令和4年度	令和3年度
来館(利用)目的の達成度	97 39.6%	125 51.0%	20 8.2%	3 1.2%	245 100.0%	90.6%	0.1%	90.5%	86.2%
総合的な満足度	87 35.1%	127 51.2%	30 12.1%	4 1.6%	248 100.0%	86.3%	0.0%	86.3%	83.9%
					平均	1.7690257	88.5%	88.4%	85.1%



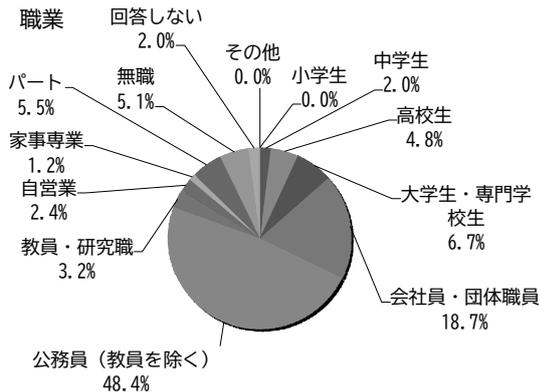
【質問2】アンケート回答者について

年齢



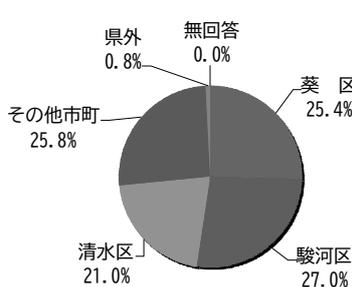
項目	回答数	割合	対R4比	令和4年度	令和3年度
10歳未満	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10歳代	21	8.3%	-4.1%	12.4%	1.7%
20歳代	32	12.7%	2.0%	10.7%	18.0%
30歳代	29	11.5%	-0.9%	12.4%	13.0%
40歳代	51	20.3%	-0.4%	20.7%	25.0%
50歳代	86	34.1%	1.1%	33.0%	35.3%
60歳代	25	9.9%	1.6%	8.3%	6.3%
70歳以上	8	3.2%	0.7%	2.5%	0.7%
合計	252	100.0%			

職業



項目	回答数	割合	対R4比	令和4年度	令和3年度
小学生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中学生	5	2.0%	-2.1%	4.1%	0.0%
高校生	12	4.8%	-1.8%	6.6%	1.3%
大学生・専門学校生	17	6.7%	1.7%	5.0%	2.7%
会社員・団体職員	47	18.7%	0.5%	18.2%	52.7%
公務員(教員を除く)	122	48.4%	3.8%	44.6%	32.7%
教員・研究職	8	3.2%	-2.6%	5.8%	2.7%
自営業	6	2.4%	-0.9%	3.3%	0.3%
家事専業	3	1.2%	-2.1%	3.3%	0.3%
パート	14	5.5%	0.5%	5.0%	2.3%
無職	13	5.1%	2.6%	2.5%	2.7%
回答しない	5	2.0%	0.4%	1.6%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%
合計	252	100.0%			

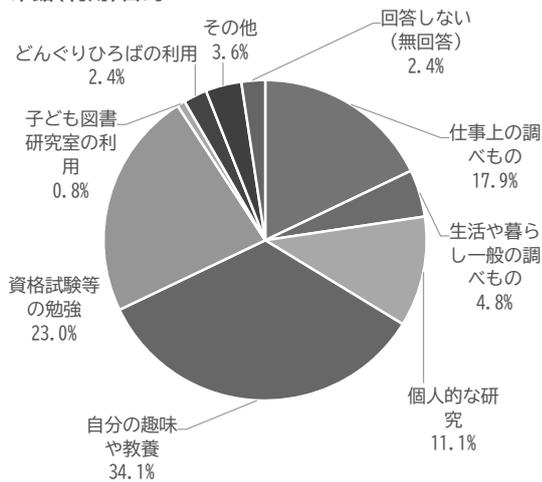
住所



項目	回答数	割合	対R4比	令和4年度	令和3年度
静岡市 計	185	73.4%	-4.3%	77.7%	82.0%
葵区	64	(25.4%)	-3.5%	28.9%	35.2%
駿河区	68	(27.0%)	6.3%	20.7%	25.3%
清水区	53	(21.0%)	-7.1%	28.1%	21.5%
その他市町	65	25.8%	5.1%	20.7%	17.6%
県外	2	0.8%	-0.8%	1.6%	0.4%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	252	100.0%			

【質問3】 当館に期待すること等について

来館(利用)目的



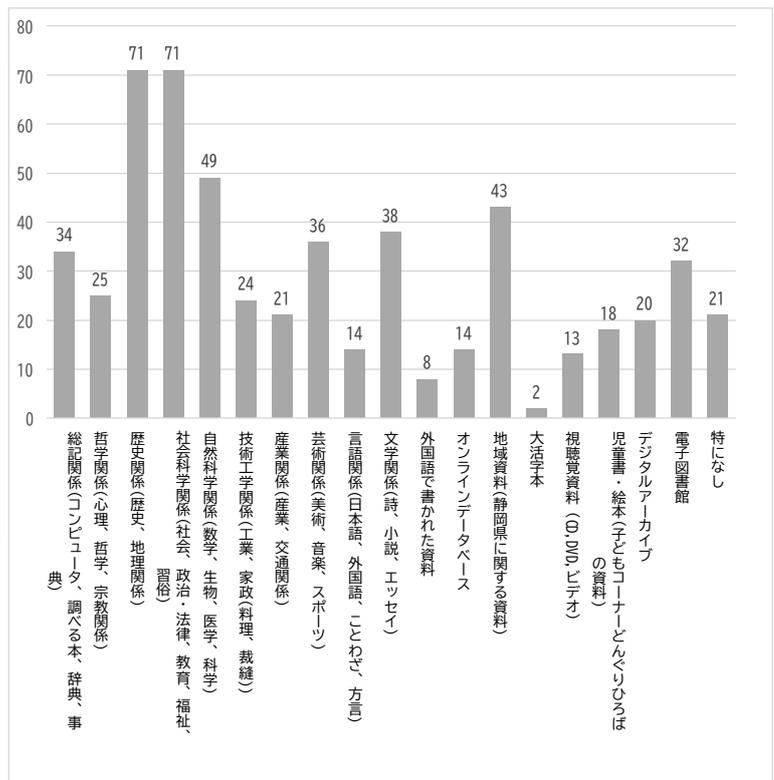
項目	回答数	割合	対R3比	令和3年度
仕事上の調べもの	45	17.8%	-5.2%	23.0%
生活や暮らし一般の調べもの	12	4.8%	-2.2%	7.0%
個人的な研究	28	11.1%	0.7%	10.4%
自分の趣味や教養	86	34.1%	-1.9%	36.0%
資格試験等の勉強	58	23.0%	11.3%	11.7%
子ども図書研究室の利用	2	0.8%	-1.9%	2.7%
どんぐりひろばの利用	6	2.4%	1.7%	0.7%
その他	9	3.6%	-5.1%	8.7%
回答しない(無回答)	6	2.4%	2.4%	0.0%
合計	252	100.0%		

※令和4年度未実施項目

充実を望む資料

項目	回答数	割合
総記関係(コンピュータ、調べる本、辞典、事典)	34	6.1%
哲学関係(心理、哲学、宗教関係)	25	4.5%
歴史関係(歴史、地理関係)	71	12.8%
社会科学関係(社会、政治・法律、教育、福祉、習俗)	71	12.8%
自然科学関係(数学、生物、医学、科学)	49	8.9%
技術工学関係(工業、家政(料理、裁縫))	24	4.3%
産業関係(産業、交通関係)	21	3.8%
芸術関係(美術、音楽、スポーツ)	36	6.5%
言語関係(日本語、外国語、ことわざ、方言)	14	2.5%
文学関係(詩、小説、エッセイ)	38	6.9%
外国語で書かれた資料	8	1.5%
オンラインデータベース	14	2.5%
地域資料(静岡県に関する資料)	43	7.8%
大活字本	2	0.4%
視聴覚資料(CD、DVD、ビデオ)	13	2.3%
児童書・絵本(子どもコーナー・どんぐりひろばの資料)	18	3.2%
デジタルアーカイブ	20	3.6%
電子図書館	32	5.8%
特になし	21	3.8%
合計	554	100.0%

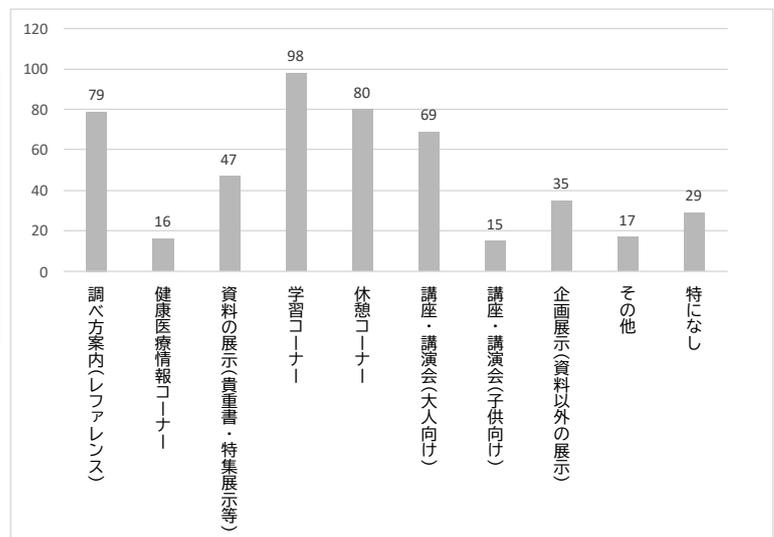
(3つまで選択)



充実を望むサービス

項目	回答数	割合
調べ方案内(レファレンス)	79	16.3%
健康医療情報コーナー	16	3.3%
資料の展示(貴重書・特集展示等)	47	9.7%
学習コーナー	98	20.2%
休憩コーナー	80	16.5%
講座・講演会(大人向け)	69	14.2%
講座・講演会(子供向け)	15	3.1%
企画展示(資料以外の展示)	35	7.2%
その他	17	3.5%
特になし	29	6.0%
合計	485	100.0%

(3つまで選択)



上記のほかに、多くの貴重なご意見をいただきました。

いただいたご意見は当館のサービスをより良いものとしていくため、今後の参考にさせていただきます。

☆☆ご協力ありがとうございました☆☆

9 振興班

(1) 市町立図書館振興

ア 市町立図書館運営の支援・協力

(7) 市町立図書館運営の支援

a 図書館活動振興に関わる運営相談

市町立図書館等からの運営等に関する様々な問合せに対して、図書館活動の振興の面から助言や情報提供を行った。質問の受付手段は特に限定していないが、協力車による訪問時や電話が多い。また、要請により時間を確保し運営相談等の支援を行った。

令和5年度はコロナ禍以前の制限のないサービスを再開する図書館が増え、通常の図書館運営に関する問合せが中心となった。相互貸借の対応、電子図書館の開始・提供に関わることや講師選定の方法など相談内容は多岐にわたった。

令和4年度から開始した「公立図書館（室）への照会・回答」を継続して実施した。第1回は26件、第2回は15件の照会があった。

要請により、2つの図書館へ運営相談等の支援を行った。

なお、令和5年度の全相談件数は243件だった。

b 図書館未設置町への支援

静岡県内唯一の図書館条例未設置自治体である川根本町に対して支援を行っている。

令和5年度は10月6日に川根本町文化会館図書室を訪問し、県内自治体の図書館設置条例についての情報や今後の図書館設置に関する町の状況について情報共有した。また、図書室のサービスなどについて現状を伺いながら助言を行った。

(4) 協力車の定期運行による資料・情報の提供等

協力車事業では、市町立図書館等に年7回訪問する協力車の定期運行（8コース、協力車事業の統計 p57～58 参照）と、年に一度の地域館・分館訪問40館（定期運行に併せた訪問館と8コース（10日間））及び宅配による資料の搬送を実施した。

協力車の定期運行では、運営に関連する相談への対応や情報交換、資料の提供及び事務連絡等を実施することで、各館との連携を図った。

(7) 参考資料・二次資料の作成と提供

『図書館協力ハンドブック PLUM2023』、『令和5年度静岡県の図書館』を発行した。

イ 職員研修（別項一覧表 p43～45 参照）

ウ 図書館活動の振興・奨励

(7) 静岡県図書館大会（令和5年度静岡県図書館大会 p58～59 参照）

(4) 読書活動の広報

(7) 読み聞かせグループ活動との連携

(2) 関係団体との連携

ア 大学・専門図書館との連携

大学・専門図書館からも静岡県図書館大会の運営委員を募集し、委員は分科会の企画・運営の中心を担うことで図書館大会の内容の充実が図られた。

当館からの協力貸出の搬送（宅配）に加え、大学・専門図書館（一部）と県内市町立図書館間の相互貸借も継続して支援し、利用者への資料提供数を増やすことができた。（静岡大学附属図書館、静岡県男女共同参画センター図書室、静岡県総合教育センター図書室、静岡県議会図書室、静岡県立大学附属図書館、静岡県立大学短期大学部附属図書館・静岡県立大学附属図書館小鹿図書館、静岡県視覚障害者情報支援センター）

イ 静岡県図書館協会

県内図書館の連携を図り、情報交換するとともに図書館の振興を図った。

(7) 静岡県図書館大会運営委員会

加盟館(室)等から募集した委員が講師との交渉や図書館大会当日の運営等の業務に当たった。

(4) 調査研究委員会

令和4・5年度は読書バリアフリー法への対応について研究を行うこととなり、令和4年度は県内図書館にむけた『ドクバリ通信』を3回発行した。令和5年度は8回発行し、調査研究委員会は活動を終了した。

(ウ) 職員研修 (別項一覧表 p43～45 参照)

(エ) 『静岡県図書館協会加盟館職員名簿』の発行

(オ) 『静岡県図書館協会 会報』(82・83号)発行

(カ) 表彰

図書館に永く勤務した職員や、図書館協議会委員に対して、その功績を称え表彰を行った。賞状は受賞者に送付し、図書館大会で所属及び氏名を紹介した。

ウ 静岡県読書推進運動協議会

県内優良読書グループを表彰するなど、県民の読書活動の推進を図った。

(7) 優良読書グループ表彰

(公社)読書推進運動協議会長賞及び静岡県読書推進運動協議会長賞について、静岡県図書館大会で表彰式を行った。

(イ) 「静岡県 読書活動だより」の発行

(ウ) 「静岡県読み聞かせネットワーク全体研修会」の共催

10月28日に全体研修会「戦後日本の絵本出版の到達点～希代の出版人松居直の仕事に則して～」を当館を会場に開催した。

(エ) 夏休み子ども図書ウィークの協賛

5つの教室(「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」「ふじっぴーの親子グラフ教室」「親子自然観察教室」「プログラミング教室」「折り紙遊び教室」)を開催した。

エ 静岡県読み聞かせネットワーク

事務局の連絡先として、問合せに対する案内や情報交換等を行った。

また、10月28日に全体研修会「戦後日本の絵本出版の到達点～希代の出版人松居直の仕事に則して～」を当館を会場に開催した。講師の古川信夫氏からは、松居直の子どもの本に対する真摯な姿勢と、妥協のない美しさへの情熱などを、多くの作品を例に挙げて具体的にお話をいただいた。(参加者 42人)

(3) 協力車事業

ア 令和5年度訪問館数

(単位：館)

市立図書館(中央館)	市立図書館(分館)	町立図書館	専門図書館	合計
23	1	11	1	36

イ 令和5年度協力車運行状況

コース名	訪問館数	訪問回数	コース名	訪問館数	訪問回数
東 遠	4 館	7 回	駿 豆	4 館	7 回
岳 駿	4 館	7 回	伊 豆	8 館	7 回
中 部	4 館	7 回	東 部	4 館	7 回
西 遠	3 館	7 回	中 遠	5 館	7 回
合 計					56 回 (延べ日数 63 日)

ウ 令和5年度市内巡回運行状況 (単位：回)

訪問館	訪問回数
静岡県議会図書室	50
静岡県立大学附属図書館	50
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	25
静岡県男女共同参画センター図書室	50
静岡大学附属図書館	24

エ 協力車巡回と宅配による資料搬送数 (過去3年)

(7) 県立資料搬送数 (単位：点)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市立図書館	10,630	10,298	9,866
町立図書館	1,384	1,354	1,192
その他	1,328	1,322	1,058
合計	13,342	12,974	12,116

(イ) 市町等資料搬送数 (単位：点)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市立図書館	35,942	34,538	31,196
町立図書館	5,322	4,750	5,148
その他	1,432	1,152	814
合計	42,696	40,440	37,158

(ウ) 県立個人貸出資料の市町図書館等窓口返却資料搬送数 (単位：点)

各窓口	令和3年度	令和4年度	令和5年度	開始日
市町立図書館	3,496	2,989	3,241	H11. 5. 1
総合教育センター“あすなろ”	76	77	82	H11. 5. 1
県民サービスセンター(返却ポスト)※1	877	800	813	H11. 11. 1
男女共同参画センター“あざれあ”	297	393	270	H13. 2. 15
グランシップ返却ポスト※2	1,923	1,434	1,165	H14. 8. 13
静岡大学	465	338	250	H18. 4. 1
静岡県立大学短期大学部附属図書館 静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	39	10	23	H31. 4. 1
合計	7,173	6,041	5,844	

※1 県民サービスセンターの返却ポストを令和3年12月に廃止し、窓口返却に変更した。

※2 令和2年9月にグランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」が閉室したため、窓口返却を廃止し、返却ポストのみに変更した。

(4) 令和5年度 静岡県図書館大会

コロナ禍により令和2年度大会は中止、3年度大会はオンライン開催、4年度は人数制限をした上での開催であったが、4年ぶりに、コロナによる制限なく、全て集合にて開催した。

令和5年度は、第30回記念大会として、令和2年度に図書館大会を中止したことによる基金を活用し、特別講演の講師として齋藤孝氏を招聘するとともに、記念展示を行った。

また、講師の許諾が得られた講演については撮影し、令和6年2月1日から29日まで、視聴申込みによるYouTube限定配信を行い、累計閲覧回数は826回であった。

併せて、配布資料は、静岡県図書館大会のWebサイトにて、全体会と第2～5分科会は、令和5年11月28日から令和6年2月29日まで公開した。第1・第6分科会は、令和5年12月7日から令和6年2月29日まで申込みによる限定公開を同サイトで行った。

ア 会期・会場

令和5年11月13日(月)10:25～15:45 グランシップ中ホールほか

(参加者 1,001 人)

イ 講演

演題	「読書が生み出す力・導く力」
講師	齋藤 孝 氏 (明治大学文学部教授)

ウ 分科会

第1分科会	図書館サービス① (参加者 137 人) 「図書館のSOS 利用者と職員をまもるための心得」 講師 中沢 孝之 氏 (福島県白河市立図書館長)
第2分科会	図書館サービス② (参加者 70 人) 「館種を超えた図書館・情報環境を考えるーデジタル、〇〇〇、そして自治」 講師 岡本 真 氏 (アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役CEO)
第3分科会	子どもの読書活動 (参加者 247 人) 「松岡享子さんが教えてくださったこと」 講師 小林 いづみ 氏 (安田女子大学非常勤講師・東京子ども図書館評議員)
第4分科会	幼児・児童・YAに対するサービス (参加者 208 人) 「絵本読みと読書が支える言葉力、思考力、学力」 講師 今井 むつみ 氏 (慶應義塾大学環境情報学部教授)
第5分科会	学校図書館 (参加者 109 人) 「GIGAスクール時代の学校図書館のアップデート」 講師 宮澤 優子氏 (長野県高森町立高森北小学校・高森町子ども読書支援センター 司書)
第6分科会	大学図書館 (参加者 36 人) 「キャッシュレス決済による図書館サービス拡大の可能性」 講師 和田 由季 氏 (広島大学図書館)

エ 第30回記念大会 記念展示

第30回記念大会にちなみ、グランシップ中ホールのロビーと2階のホワイエにて、県図書館協会加盟館が所有していた20年以上前の図書館に関する写真や読書週間等のポスター約100点を展示した。併せて、デジタルサイネージにて、動画『静岡県立中央図書館の歴史』なども上映した。

展示された写真からは、当時の図書館の様子や読書の様子がうかがえて好評だった。

(5) 表彰(敬称略・関係団体の表彰も含む)

全国公共図書館協議会表彰			
勝亦 晃子	(富士宮市立中央図書館)	野村 貴子	(富士宮市立中央図書館)
星野 裕美	(富士宮市立芝川図書館)	渡邊 友美	(静岡市立清水中央図書館)
平野 義久	(磐田市立福田図書館)	神戸 美紀	(清水町立図書館)
※県図書館協会加盟館一覧順、所属は令和5年3月31日現在			
静岡県図書館協会表彰			
木村 知美	(静岡県立中央図書館)	児玉 匡史	(静岡県立中央図書館)
安田 宏美	(静岡県立中央図書館)	尾沢 佳世	(伊豆市立中伊豆図書館)
荻島 亮子	(伊豆市立修善寺図書館)	上野 真紀	(伊豆市立修善寺図書館)
伊郷 美恵	(伊豆市立中伊豆図書館)	藤井 郁代	(伊豆市立土肥図書館)
月出 真理子	(伊豆市立天城図書館)	西脇 裕美	(伊豆市立修善寺図書館)
立井 孝昌	(三島市立図書館)	杉浦 なほ美	(三島市立図書館)
高地 英壽	(沼津市立図書館)	岩崎 啓子	(沼津市立図書館)
山本 晴望	(沼津市立図書館)	一見 晃子	(沼津市立図書館)
加藤 直子	(沼津市立図書館)	山室 里恵	(富士宮市立中央図書館)
牧野 友美	(富士宮市立芝川図書館)	齋藤 信子	(富士宮市立中央図書館)
勝見 留理	(静岡市立中央図書館)	望月 彩子	(静岡市立中央図書館)
白鳥 晶子	(静岡市立中央図書館)	石上 元美	(静岡市立中央図書館)
秋山 倫緒	(静岡市立御幸町図書館)	増田 芯	(静岡市立御幸町図書館)
鈴木 麻起子	(静岡市立御幸町図書館)	山内 由美子	(静岡市立御幸町図書館)
進士 まゆか	(静岡市立御幸町図書館)	小島 あや子	(元静岡市立御幸町図書館)
波多野 聡子	(元静岡市立藁科図書館)	大山 まお美	(静岡市立南部図書館)
森西 正好	(静岡市立長田図書館)	加藤 真保	(静岡市立清水中央図書館)
山西 里佳	(静岡市立清水中央図書館)	小野 茶都子	(静岡市立清水中央図書館)
春寄 由紀	(静岡市立清水興津図書館)	岡村 有里子	(静岡市立清水興津図書館)
原島 和恵	(静岡市立清水中央図書館)	永井 里子	(島田市立島田図書館)
伊藤 麻希	(島田市立島田図書館)	森山 尚子	(島田市立金谷図書館)
朝比奈 美香	(島田市立川根図書館)	柳原 清美	(菊川市立図書館菊川文庫)
河原崎 夏子	(菊川市立小笠図書館)	平出 聡美	(菊川市立小笠図書館)
鈴木 正文	(掛川市立大須賀図書館)	沢崎 恵理子	(掛川市立大東図書館)
堀内 美穂	(掛川市立大東図書館)	鈴木 真帆子	(掛川市立大東図書館)
加藤 理恵子	(掛川市立中央図書館)	房村 裕子	(掛川市立中央図書館)
水野 和香江	(掛川市立中央図書館)	吉田 明子	(掛川市立中央図書館)
坂部 ひろみ	(掛川市立中央図書館)	横澤 恭子	(磐田市立豊岡図書館)
森田 久美子	(磐田市立福田図書館)	水野 智佐登	(磐田市立中央図書館)
大場 由美子	(磐田市立中央図書館)	中崎 有紀	(磐田市立中央図書館)
塚本 みづき	(磐田市立竜洋図書館)	高木 恭代	(袋井市立袋井図書館)
長谷川 陽子	(浜松市立佐久間図書館)	太田 万裕香	(浜松市立中央図書館)
柳川 友香	(浜松市立中央図書館)	平野 まゆみ	(函南町立図書館)
佐々木加奈子	(函南町立図書館)	松井 彩乃	(函南町立図書館)
小野 華子	(静岡大学附属図書館)	高橋 里江	(静岡大学附属図書館)
青池 菜衣	(静岡大学附属図書館)	袴田 美里	(静岡大学附属図書館)
森部 圭亮	(静岡大学附属図書館)	池谷 明子	(浜松医科大学附属図書館)
原田 多美子	(浜松医科大学附属図書館)	堀内 古季	(静岡文化芸術大学図書館・情報センター)

渡邊 奏子

(日本大学図書館国際関係学部分館)

杉浦 直美

(聖隷クリストファー大学図書館)

長田 直子 (日本建築専門学校図書館)

鈴木 朱美 (静岡県議会図書室)

※県図書館協会加盟館一覧順、所属は令和5年9月1日(退職者は3月31日)現在

優良読書グループ表彰

- ・(公社)読書推進運動協議会長賞 すまいるハート (静岡市)
- ・静岡県読書推進運動協議会長賞 ハピママ☆キッズ (静岡市)

「読書県しずおか」づくり優秀実践校・団体(者)表彰

表彰式：令和5年11月14日(火) 静岡県庁(静岡県教育委員会教育長室)

- ・小学校の部 袋井市立袋井北小学校
- ・中学校の部 浜松市立北部中学校
- ・高等学校の部 静岡県立掛川工業高等学校
- ・特別支援学校の部 静岡県立浜松特別支援学校
- ・団体(者)の部 ねこバス(静岡市)
磐田おはなし とわの会(磐田市)

10 総務班

(1) 図書館協議会

ア 委員

任期：令和4年8月1日から令和6年7月31日まで

職名	氏名	任期中の異動	現職
会長	轟木堅一郎		静岡県立大学附属図書館長 (静岡県立大学教授)
副会長 R5.3.31まで	澤本 由美	R5.3.31 退任	静岡県教育研究会学校図書館研究部長 (静岡市立大河内小中学校長)
副会長 R5.6.1から	鈴木 千明		磐田市立富士見小学校・城山中学校 図書館ボランティア 読み聞かせボランティア
委員	高山ひさ乃	R5.4.19 就任	静岡県教育研究会学校図書館研究部長 (静岡市立井宮小学校長)
委員	内山 淳子	R5.3.31 退任	東伊豆町立図書館長
委員	服部祐三子	R5.4.19 就任	御前崎市立図書館長
委員	平松 栞		静岡文化芸術大学文化政策学部 文化政策学科
委員	鈴木 真澄		静岡県家庭教育支援員 県PTAサポーターズ事務局長 (長泉小学校評議員)
委員	庄田 達哉		株式会社静岡新聞社 編集局出版部
委員	奥村 篤		沼津市教育委員会教育長
委員	山崎 克巳		障害者相談支援センターピロス相談支援専門員 静岡県車いす友の会役員 ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会委員
委員	吉見光太郎		静岡県書店商業組合理事長 株式会社吉見書店代表取締役 静岡教科書株式会社常務取締役

イ 協議会

(7) 第1回

日時：令和5年6月1日（木）午後1時30分～午後4時

出席者：委員8人（うち1名、Web参加）

議事：1 県立中央図書館の状況及び令和5年度の主要施策について
2 各課の業務紹介と令和5年度重点取組について

(4) 第2回

日時：令和6年2月16日（金）午後1時30分～午後4時

出席者：委員5人

議事：1 県立中央図書館の状況について
2 令和5年度の主要施策報告・重点取組の評価について
3 令和6年度の基本方針と主要施策について

(2) 施設設備の維持管理

ア 資料棟

(7) 閲覧室屋上明かり取りドーム修繕

閲覧室屋上明かり取りドームの補修をし、雨漏りの対応をした。

イ インフォメーション棟

(7) 展示室雨漏り対応等工事

歴史文化情報センターの移転に伴い、屋上明かり取りドーム修繕工事及び囲いパネルを設置した。

(4) 3階会議室空調設備修繕

空調設備の配管から蒸気もれが発生したため、修繕を行った。

(3) 施設利用状況

令和5年度 各施設の外部利用人数

(単位：人)

	講 堂	会議室	中集会室	小集会室 A	小集会室 B	合 計
上半期	70	150	128	150	121	619
下半期	0	97	382	106	154	739
合 計	70	247	510	256	275	1,358

11 健康医療情報サービス

当館では平成23年7月に健康医療情報コーナーを開設し、健康医療情報サービスを開始した。5～6人で構成される館内組織横断型の委員会を設置し、事業にあたっている。令和5年度は、静岡県看護協会の「まちの保健室」実施や健康医療情報講演会の開催に加え、出張図書館を行い、利用者に健康医療情報を届ける役割を果たした。

(1) サービス内容

ア 健康医療情報コーナー

(7) 内容

- ・参考図書（辞書事典類）
- ・ヘルスリテラシー関連資料（ナラティブ関連資料を含む）
- ・入門書・図解シリーズ
- ・健康医療情報関係雑誌 10誌
- ・特集展示（月ごとのテーマ展示）関連資料の展示・資料リスト配布

(4) 特集展示のテーマ一覧

月	テーマタイトル	月	テーマタイトル
4～5月	発達障害	10～11月	骨の健康
6～7月	睡眠を見直す	12～2月	口腔ケア
8～9月	夏の体調不良	3～5月	メンタルヘルス

イ オンラインデータベース

- ・医中誌Web [特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会]
国内発行の医学・歯学・薬学・看護学・心理学及び関連分野（スポーツ医学・獣医学など）の定期刊行物、延べ約7,000誌から収録した約1,500万件の論文情報を検索できる。
- ・ヨミドクター [読売新聞社]
読売新聞の医療・介護・健康情報サイト。医療大全、病院の実力、医療相談室、介護シニアなどのコンテンツがあり、様々な記事が掲載されている。
- ・JDreamIII [株式会社ジーサーチ]
国内外の科学技術や医学薬学関係の文献情報を検索できる日本最大級の科学技術文献データベースである。約8,000万件の文献情報を検索できる。

(2) 関連事業

ア 健康医療情報講演会

演題：「歯周病の予防と治療～ふじのくにの健康長寿にもつながる～」

講師：吉田 直樹 氏（静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科教授）

実施日：令和6年2月25日（日）14:00～16:00 参加人数：26人

イ 出張図書館

県立図書館が所蔵する健康医療に関する資料の展示、新規利用者登録、貸出処理等

- ・「生涯健康サイエンスフェス in 静岡県立大学 2023」での出張図書館

実施日：令和5年11月18日（土）10:30～15:00

会場：静岡県立大学大講堂

ウ 外部機関との共催事業など

- ・まちの保健室（県看護協会による健康相談会）

実施日：令和5年11月11日（土） 参加人数：9人

12 歴史文化情報センター（地域調査班）

(1) 県史編さん資料の保存・整理・公開

ア 保存・整理

当センターは『静岡県史』編さん事業の過程で集められた県内外の古文書類等の複製資料や明治以降の県内発行新聞各紙など約 16 万点以上の資料と他県史・県内市町村史を中心とする刊本を保管している。現在、保管する古文書資料等の目録作成及びデータベースへの登録を継続して行っている。

イ 公開

刊本・新聞は閲覧できるが、貸出はしていない。古文書類については、目録作成が終了したのから原所蔵者に対し順次資料利用公開の許可申請を行い、公開許可の回答が得られたもののみを公開している。

また、ウェブでの公開許可が得られた資料については平成 20 年 4 月から目録公開を開始した。平成 22 年 5 月の新システム稼働に伴い、所蔵者から公開許可をいただいている資料の画像登録と公開も新たに始め、情報発信を充実させた。

令和 5 年度も引き続き古文書目録及び画像資料をウェブ公開した。また、布達及び新聞紙情報の目録も公開している。

(2) 利用状況

令和 5 年度当センターの開館日数は 145 日、来所者人数 111 人、利用内訳は新聞閲覧点数 33 件（123 点）、古文書閲覧点数 49 件（525 点）、複写申請 61 件（472 点）、資料掲載等許可申請 36 件（58 点）、レファレンス 66 件であった。

レファレンスの内訳は以下のとおりである。

ア レファレンス受付方法

方法	割合(%)
電話	66.18
来室	16.18
その他	17.64

イ レファレンス内容

内容	割合(%)
県史の内容等	0.00
歴史・民俗について	44.62
資料利用について	30.77
その他	24.61

ウ レファレンス対象

対象	割合(%)
一般(県内)	30.77
一般(県外)	13.85
県庁内	10.77
研究者・学生	32.31
自治体	1.54
新聞社・出版社等	6.14
その他	4.62

13 資料紹介 歴史文化情報センターの移転と中世CH資料の改装

歴史文化情報センター

静岡中央ビル解体計画と歴史文化情報センターの引っ越し作業

令和3（2021）年3月初頭、静岡市葵区追手町9番18号所在の静岡中央ビル（通称「黒ビル」）を令和5（2023）年度に解体する計画が当ビルに入居する全団体に通知された。これにより、当ビル7階に入居する静岡県歴史文化情報センターも移転を余儀なくされ、県史編さん室であった平成9（1997）年以來四半世紀以上にわたる静岡中央ビルでの資料整理・提供活動が閉幕する運びとなった。

当初の計画では、静岡中央ビルの令和8（2026）年度再建を目指して令和4（2022）年度中に全入居団体の退去が必須とされていたが、多数の団体が移転先の確保に難航したため、1年猶予期間が延長され、令和5年度中の退去完了に修正された。当センターの場合、移転先は静岡市駿河区谷田53番1号所在の静岡県立中央図書館本館（以下、「本館」という。）と当初より定まっていたため、移転準備に約1年間の余裕を得た形になった。また、廃棄可能な消耗品を除いて開架・閉架資料は全て引っ越しさせること、静岡中央ビルの再建と新県立図書館の完成予定年度が同一年度になり得るため、静岡中央ビルに戻らず、本館とともに新県立図書館へ再移転することが決定した。

令和5年10月31日、かねて広報のとおり当センターは来室・電話・電子メールによる利用者対応を停止し、翌日より引っ越し準備作業に着手した。不要な二次・三次作成資料等の解体・廃棄と必要資料の梱包を同時併行で実施し、同年12月第4週には梱包作業が完了、翌令和6（2024）年1月19日には開架・閉架の全書棚が解体された。この書棚は解体後直ちに本館へ搬送され、同月23日、本館3階の展示室北西端部に南北約11m×東西約24m、縦6～8段、棚数合計666の書庫的設備（以下、「歴文資料置場」と仮称）として再現した。



写真1 移転前 中世CHケース配架状況
南東より



写真2 中世CH旧ケース 県内資料(chkn)配架状況



写真3 中世CH旧ケース 県外資料(chkg)配架状況

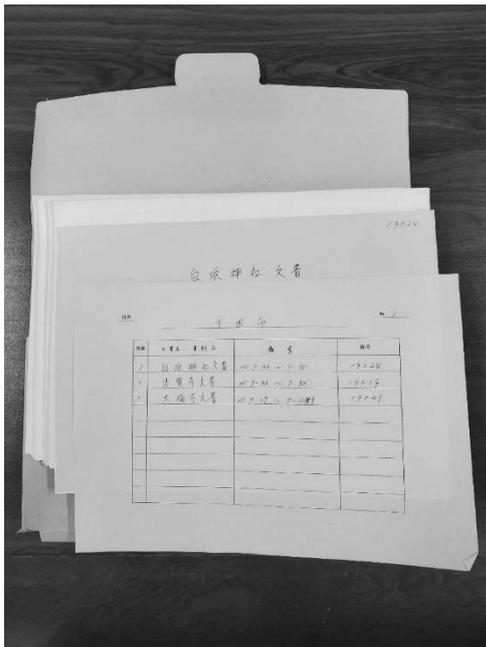


写真4 ケース番号 chkn51 資料収納状況

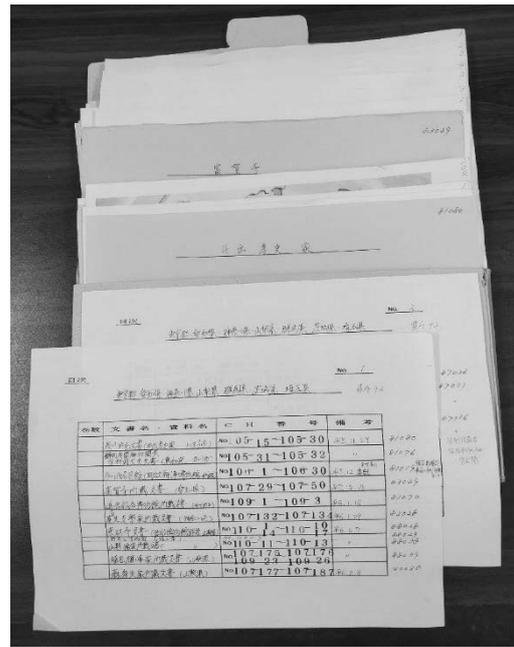


写真5 ケース番号 chkg92 資料収納状況

懸案であった中世CH資料

移転前の当センター閉架書庫で主要な資料体の一つが高感度塩化臭化剤印画紙（Chlorobromide Highsensitive : CH）に焼き付けられた古文書の写真である。これらCHは県史編さん室当時から中世・近世・近現代の各調査部会で整理されたものである。仮製本されて冊子の体裁を取るものも少数存在するが、大多数は綴じないまま紙製のケースファイルに収納して配架されている。総数 13,500 冊のCHケースファイルのうち、中世部会が県内（ケース番号 chkn～）・県外（ケース番号 chkg～）別に収集・整理した資料は計 411 冊を数えた（写真1～3）。いずれもサイズはA4判である。

中世CH資料の各ケースファイルは中世部会の資料調査の日付別にまとめられていた。例えば、ケース番号 chkn51 の内容は昭和 61（1986）年 5 月 29・30 日における下田市方面の資料調査で得た古文書の撮影資料であり、白浜神社、本覚寺、太梅寺の 3 家 21 件が収められていた（写真4）。つまり、1 ケースに複数の家（原所蔵者）の資料が収納されており、資料 1 件ごとではなく家ごとに仕切りの色紙が挿入され、個々の資料はCHの右肩に薄く鉛筆書きされた 3～4 mm 角ほどの資料番号で辛うじて識別できるという有様であった。甚だしい例では、ケース番号 chkg92 のように収納資料件数 42 件が 1 都 6 県の 13 家で構成されていた（写真5）。しかも、同じ家の調査が複数日に及ぶ場合も数多く見られた。他方、近世・近現代のCH資料は家別に整理され、家番号－ケース番号－資料番号の階層順に整理している。つまり、近世・近現代のケースファイルは家ごとにまとめられ、各ケース内では資料番号 1 件ごとに仕切りの色紙が挿入されており、出納に不便を来たすことは稀である。

中世CH資料がこのような形で整理されているのは恐らく、中世部会の活動開始が県史編さん事業の初期に当たり、調査で得た資料の整理方法も手探りの状態であったためと推測される。調査日付別のCH収納も、そのほうが中世部会委員にとって原稿執筆や再調査に便利であったからであろう。やがて資料整理の方法も洗練され、近世部会が調査に乗り出す頃には将来の一般利用も見据えて完成度を相当高めたと考えられる。中世CH資料の場合、当センター利用者の資料出納に当たる職員はまずケースを探し、その中で該当する家番号のまとまりを特定し、更に仕切りもないCHの塊の中から片隅に小さく書かれた資料番号とおぼしき数字を頼りに資料 1 件を選び出す一長年当センターに勤務する職員でも毎



写真6 移転後 中世CHケース配架状況
西より



写真7 中世CH新ケース 県内資料配架状況



写真8 中世CH新ケース 県外資料配架状況

回難渋する作業であった。

そこで当センターでは、移転を機に中世CH資料の再整理、具体的には家別のケース入れ替えとそれに伴う県史編さん収集資料検索システム上の請求番号等データ修正に着手することとした。

中世CH資料の読み合わせとケース入れ替え

歴史文化情報センターの全資料・備品等荷物は令和6年1月20・21日に本館へ搬送されたが、段ボール20箱に梱包された中世CH資料のみ先行して引っ越す運びとなり、令和5年12月28日、本館3階に到着した。年明け早速の令和6年1月4日より小集会室Aで、当センター職員3人により中世CHの読み合わせを実施した。1人がchkn・chkgの旧ケース1冊内を資料1件単位で仕分け、現物として存在が確認されたCHの家番号-資料番号(c~)を読み上げ、他の1人が仕切り用のA4判色紙の右肩にこれを記載する。この間、もう1人が読み上げられた5桁の家番号を新品ケースファイルの背上部に記載し、その家のケース1冊目として背下部にケース番号1を記す。読み合わせが終わったCHは資料1件ごとに仕切りの色紙を付して新ケースに収納する。この作業の間に、先程仕切り色紙右肩に家番号-資料番号を書いていた職員が「中世資料シート」と称する台帳に個々の資料の新旧ケース対応関係を記入する。

旧ケース1冊の内容が1家で構成されている場合は入れ替え先の新ケースも1冊であるが、旧ケース1冊に複数家が入っていれば複数冊の新ケースが派生することになる。また、複数の旧ケースに同じ家番号の資料が大量に入っている場合は、1ケースに無理なく収納可能なCHの枚数を勘案して家番号別の新ケースに適宜収容し、同一の家番号でケース番号が複数成立することもある。

令和6年2月15日、中世CH資料の新ケースへの入れ替え作業が完了した。県内資料、すなわち旧ケース番号chkn~のCH資料は旧ケース292冊から家番号別の新ケース638冊へ移され、県外資料、すなわち旧ケース番号chkg~のCH資料は旧ケース119冊から家番号別の新ケース220冊へ移され、それぞれ歴史資料置場に配架された(写真6~8)。

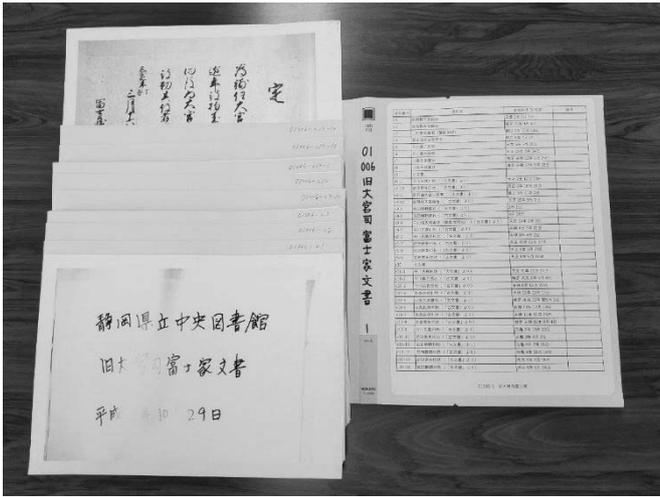


写真9 家番号 01006・ケース番号 1 資料収納状況

ちなみに、家番号の上2桁は市町村番号であり、県内資料は平成3（1991）年4月末日現在で静岡県内に存在した75市町村に基いて01（静岡市）から75（三ヶ日町）までが振られており、市町村別ではないが、県外資料は81（東京都）から93（九州地方）までが登録されている。

中世CH資料のデータ修正

読み合わせ作業で蓄積された中世資料シートを参照しつつ、県史編さん収集資料検索システムに登録されている中世CH資料の請求番号データのうち、旧ケース番号を新ケース番号に改める

作業を始めた。しかし、いざデータと現物を突き合わせてみると、データ上は存在するがCHとしては確認できなかつたり、逆に、CHは存在するのにデータが登録されていない資料に少なからず遭遇したのである。特に、「c1-1」「c20-3」のような資料番号に枝番号の付く資料にこれらの不整合が多く見受けられ、「CH不明」情報の追加、不要・重複データの削除、資料によってはCHの内容を解読してデータを新規登録することもあった。

令和6年2月27日、中世CH資料のデータ修正が完了した。新ケース番号はいずれも単純な自然数 n であるが、旧ケース番号に慣れ親しんできた利用者の便に供するため、そして、今回の一連の作業に何か誤謬があった場合に元データに戻って修正できるようにするため、中世CH資料のケース番号表記は「 n (旧 chkn〜)」「 n (旧 chkg〜)」の新旧併記とした。ケース番号「旧 chk」で検索すると8,262件表示されるが、これが今回改装した中世CH資料の全件数である。

全国区の当センター中世資料

写真9は現在静岡県立中央図書館（家番号 01006）所蔵の（富士山本宮浅間大社）旧大宮司富士家文書の中世CH資料のうち、ケース番号1の新ケース改装完了状況を示したものである。当ケースには資料番号c1～c10-14のCH資料が計36件収められ、ケースの表面に資料番号、資料名、資料年月日からなる一覧表を貼付し、資料調査時の撮影キャプションのCHも資料36件の冒頭に添えている。当ケースの内容は全て公開可能なものであるが、非公開資料の場合、貼付一覧表の該当部分を灰色トーン掛けした。

以上の中世CH資料改装作業が、令和6年4月2日の当センター利用者サービス再開に間に合ったことは幸いであった。本館移転後の当センター利用状況の見通しは依然不透明であるが、令和5年度の当センター来室利用者総数88人のうち、県外からお越しの利用者は28人（約32%）を占めた。この事実のみでも静岡県歴史文化情報センターが全国区の施設であると十分唱え得るが、例えば天下政権である鎌倉幕府の中枢を担った北条氏の本貫地が静岡県内（伊豆の国市）に所在し、戦国時代には今川氏、武田氏、後北条氏、徳川氏といった全国的にも有名な大名・武将が静岡県域に割拠したこと等により、当センター架蔵の中世資料そのものが全国区であると称しても過言ではないと考えられる。県内外の皆様方には、奮ってご利用いただきたい次第である。

（文責 大林 元）

14 特集 貴重書講座スペシャル講演録

欧米への江戸幕府の眼差し — 葵文庫の洋書を中心に —

元文化庁主任文化財調査官 岡部 幹彦

833部、2300冊余に及ぶ葵文庫の洋書は、明治以降の移管分を除くと、すべて幕府の複数の機関に所蔵されたものです。これらの機関のうち諸術調所と横浜仏語伝習所を除く機関の淵源に遡ると、それらはいずれも「蛮書和解御用」にその起源を有しています。そしてこの蛮書和解御用の最大の成果である『厚生新編』もまたこの葵文庫の貴重な蔵書です。今回のテーマは、葵文庫形成の出発点とも言える蛮書和解御用が何故に天文方に置かれることとなったのか。この点に焦点を当てることにします。

1. すべては《暦》から始まった

17世紀のわが国の暦は、中国の宣明暦を800年間も使い続けたために誤差の大きなものになっていました。そこで渋川春海が独自の暦法を編み出し、貞享元年（1684）に幕府がこれを採用して《貞享の改暦》が行なわれました。これを機に精度の高い暦を編むことを継続的に研究する目的で天文方が寺社奉行（後に若年寄）のもとに置かれたのです。一方、当時の中国の暦法は、イエズス会の宣教師たちによって中国にもたらされた西洋天文学を受容したものでした。わが国の民間の研究者も天文方も中国の暦法書を介して西洋天文学に触れることとなります。

西洋天文学を反映した中国の暦法書『暦算全書』の解説を8代将軍徳川吉宗が建部賢弘に命じたのもその少し後のことです。さらに吉宗は、天文方に西洋天文学に基づく改暦作業を命じたのです。こうして天文方は改暦を具体的な目標として西洋天文学と取り組むこととなります。この時点では依然として中国の暦書を通じてです。しかも残念なことに吉宗の意向に沿う改暦は、彼自身の逝去により実現されることなく、宝暦5年（1755）の《宝暦の改暦》となります。

その後幕府は、ティコ・ブラーエの理論を反映した徐光啓ら編纂の『崇禎暦書』に基づく暦の試作を寛政4年（1792）天文方に命じます。寛政7年『崇禎暦書』や『暦象考成後編』を研究していた間重富、高橋至時が招聘され、高橋至時が天文方となります。はじめて西洋天文学—ケプラーの楕円軌道論を含む—に基づいた《寛政の改暦》が寛政9年（1797）に行われます。

そして享和3年（1803）、若年寄堀田正敦は、高橋至時にフランスの天文学者ラランドの

天文書のオランダ語版『ラランデ暦書』の調査を命じました。ここに具体的かつ直接的に天文方が外国語文献を扱うことになったのです。乱暴な言い方になりますが、この『ラランデ暦書』の調査こそ後の蛮書和解御用へと発展する歩みの第一歩と言えるものです。

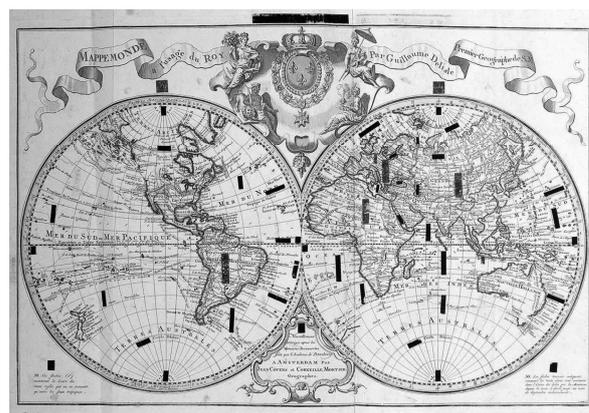
そもそも天文方の職務の中心は《暦》です。そして、これまで見たように幕府の西洋への眼差しもまた《改暦》という極めて重要な事業遂行のための必要性に迫られたものでした。こうして《暦》を軸とした天文方と蘭書・洋書との関係が成立したのです。ただし、この時点ではまだ蛮書和解御用は置かれていません。その誕生には天文方に係る新たにもうひとつの重要な課題が遂行されなければなりませんでした。

2. 地図の中の不思議な日本

もうひとつの重要な課題とは世界地図の作成です。この課題を成し遂げるには西洋地理学の受容と理解が不可欠です。江戸時代と地図という言葉から伊能忠敬を思い浮かべる方もいらっしゃるかと思いますが、伊能の全国測量もまた天文方の仕事です。ですが、今回は伊能には触れません。

文化4年（1807）12月、大学頭林述斎から天文方に「蛮書以て地図等仕立て申すべし」との命が下ります。高橋景保側では「文化四年丁卯冬十二月 命 臣景保等校訂万国全図」と記しています。「蛮書を以て」ですから西洋地理学上の情報を学ばなければなりません。《暦》の西洋天文学に加えて《地図》の西洋地理学です。

当時の西洋製世界地図の一例を葵文庫に蔵される貴重書『世界の四大陸を含む新地図帳』で確認してみましょう。160点ほどの地図が2冊に装丁された大型の地図帳です。アムステルダムで刊行ですが刊行年の記載はありません。最初の方に「両半球図」という形式の世界地図があります。これはこのアトラス全体のインデックス的なものです。この時期は各国が競うようにして探検を行い、地理上の発見が続いた時期で、次々と新しい地図が刊行されています。



世界の四大陸を含む新地図帳「両半球図」
（静岡県立中央図書館所蔵）

この両半球図にはニュージーランドの北島と南島間のクック海峡が描かれています。この海峡が確認されたのは1769年です。一方、オーストラリアでは、タスマニアが大陸の

陸続きに描かれています。実際にはタスマニアはバース海峡で分断された島です。この海峡は1798年になって確認されました。これらの2点からこの両半球図は1769年以降、1798年以前に制作されたことが判ります。景保が命を受けた時点からおよそ20年から35年ほど前の世界地図ということなのです。

この地図帳の『インドと中国の地図』の日本は、蝦夷地が大陸の一部とされ、蝦夷地と樺太との間のラ・ペルーズ海峡（1787年発見）が描かれていません。同じく『アジア全図』では、蝦夷地は大陸から離れますが、樺太とサハリンは別のものとされ、カラフトは大陸の半島状の陸続き、サハリンは独立した島として描かれています。

同じ地図帳の中の図でありながら蝦夷地と樺太周辺がまったく異なる姿で描かれています。幕府にとって、これは見過ごせない問題であったと思われます。この地域の正しい地図をわが国が作らない、あるいは作ることができないなら、この地域の領有やその権益を主張する根拠を失いかねない重大事です。この新地図帳は一例に過ぎませんが、当時の世界地図ではヨーロッパから到達することの困難な地域、この蝦夷地とその北方もそうした地域ですが、それらの地域の地図には誤りや混乱がありました。

新たに地図を作成するにはこの樺太・サハリン問題、すなわちこれらが同一の1島なのか異なる2島なのか。また樺太は大陸の一部か否かという問題がありました。この問題について景保は多数の地図を調査し『北夷考証』を書きます。北夷とは北蝦夷つまり樺太のことです。その中で彼が正しいと判断して採用した図は、アロースミス図の地図でした。景保はアロースミスの1780年のメルカトル図法の地図と記していますが、その地図の最初の版は1790年版で1780年版は存在しません。初版を訂正した1792年版、1802年版のいずれも『北夷考証』の図と一致しません。一致するのは1808年版です。高橋景保への下命は文化4年（1807）、最新の1808年版アロースミス図を入手し、文化6年（1809）には『北夷考証』を書いたこととなります。こうして暦に始まった天文方の西洋天文学の受容・吸収は、さらに西洋地理学研究へと展開されたのです。

大学頭林述斎の命により景保ら天文方が作成した地図が『新訂万国全図』（凡例文化7年）です。まさに命のとおり「新訂」と名を付した「万国全図」であったのです。

3. 蛮書和解御用

文化8年（1811）3月、高橋景保は新たな命を受けます。「和蘭ショメールといふ書八巻を…訳生貞由をして別に此編全部を和解訳文として上るべきよしの厳命を奉ず」というものです。フランス人ノエル・ショメールが著した『日用百科事典』のオランダ語版を全文翻訳せよというものです。この『日用百科事典』はわが国での評価がたいへん高く、2冊本、4冊本、8冊本、12冊本、17冊本などの版が輸入され各所に現存しています。

景保を「蛮書和解御用」に、大槻玄沢と馬場貞由を「蛮書和解御用手伝」にこの翻訳が開始されます。そして天保11年（1840）頃までに完成した訳文が葵文庫に蔵される『厚生新編』です。全70冊（現存68冊）の大部の翻訳書です。

百科事典ですから広範な分野の項目が収録されています。この事典をつうじて各分野の蘭学者たちは多くを学び、その成果を遺しています。

オランダ語の天文学書により暦法を研究し、西洋の地理学書や地図によって世界地図を作成した天文方。語学力に加え、西洋学術を理解することのできる天文方に蛮書和解御用が置かれたのです。そしてこれが葵文庫洋書の旧蔵機関の起源となったのです。



厚生新編（静岡県立中央図書館所蔵）

4. 高橋景保の西洋への眼差し

今回のテーマは「江戸幕府の欧米への眼差し」です。今日のお話の中心人物高橋景保の眼差しが現れた言葉を紹介しておきます。先ほど取り上げた『北夷考証』の草稿『北夷考』の中の言葉です。

「…凡漢土ハ空理ヲ立、西洋ハ実利ヲ立ツ。…実利トハ何ソヤ…其物ヲ実験シテ後其理ヲ論シテ…漢土与西洋学ノ異ナルコト如此。」

この言葉から私は客観性や実証性の追求という鋭い視線一眼差しを強く感じます。この言葉に表れた眼差しは、その後のわが国の西洋学受容の基本姿勢をなすものと言ってよいでしょう。今回はこの高橋景保の言葉を借りて「幕府の眼差し」とまとめさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

この講演録は、令和5年10月21日（土）グランシップにおいて開催された貴重書講座スペシャルの講演内容を講演者が要約したものです。貴重書講座スペシャルは、「東アジア文化都市2023静岡県専門協働プログラム」として開催されました。

Ⅲ 施設及びサービス案内 (令和6年度)

1 図書館配置図



2 施設の概要

(1) 静岡県立中央図書館

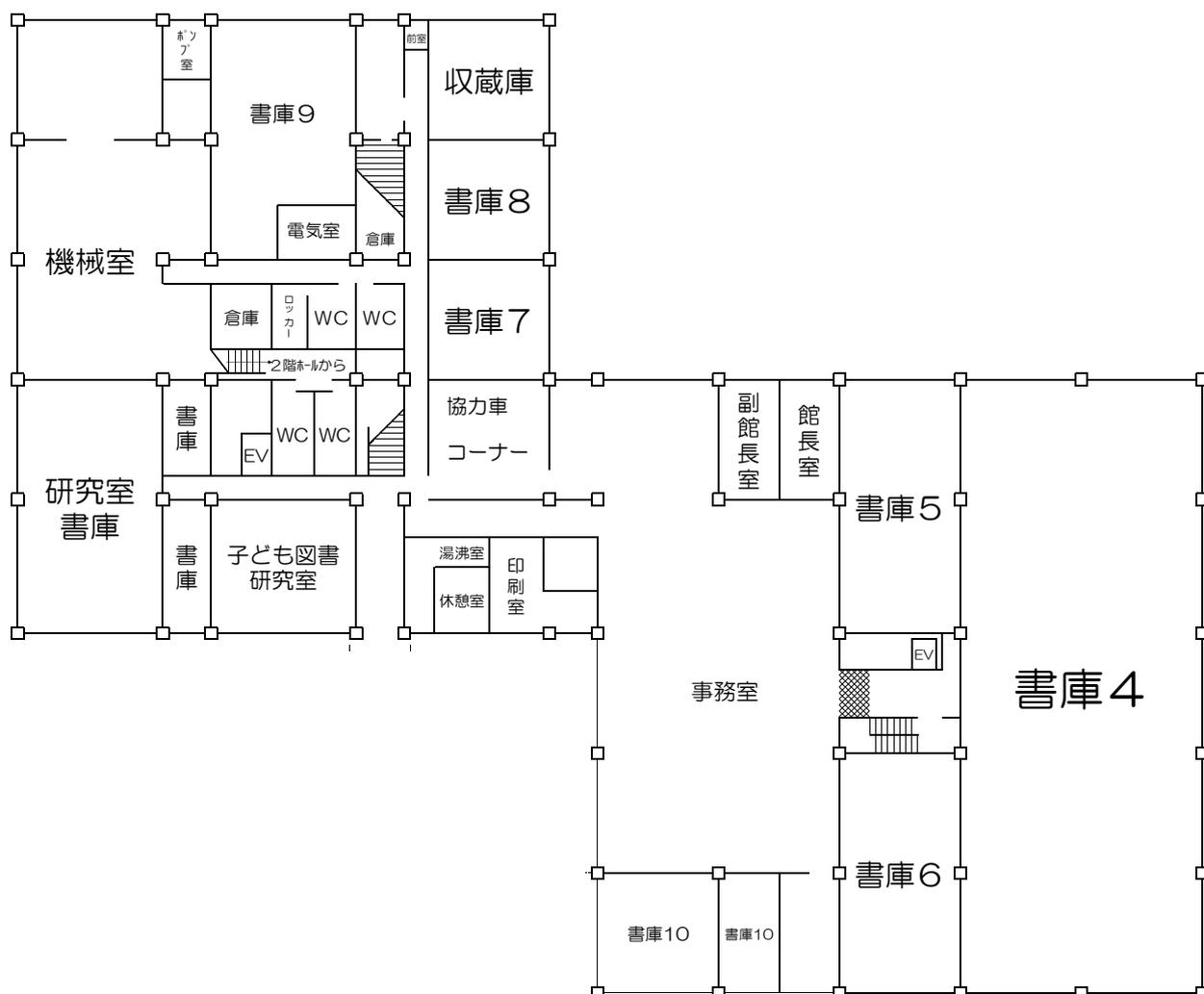
- ・鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階
- ・延面積 8,816.64 m²
- ・主な施設 閲覧室 (1,522.56 m² 188席) 書庫 (延2,515.56 m²) 子ども図書研究室 (92.00 m²)
事務室 (593.60 m²) 電算室 (96.00 m²)

.....

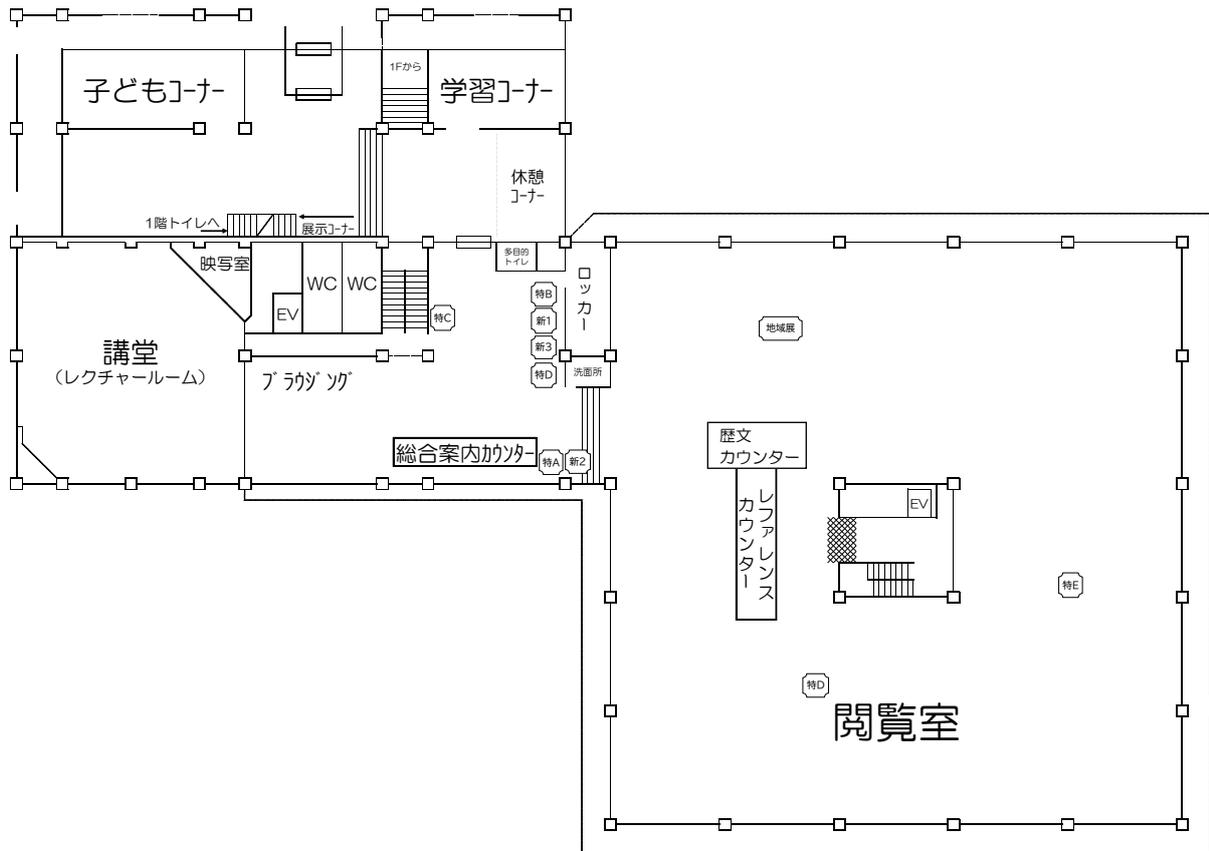
講堂 (276人) 会議室 (120人)
中集会室 (50人) 小集会室A (30人) 小集会室B (20人)
展示室 (延壁90 m²)

- ・平面図 (以下のとおり)

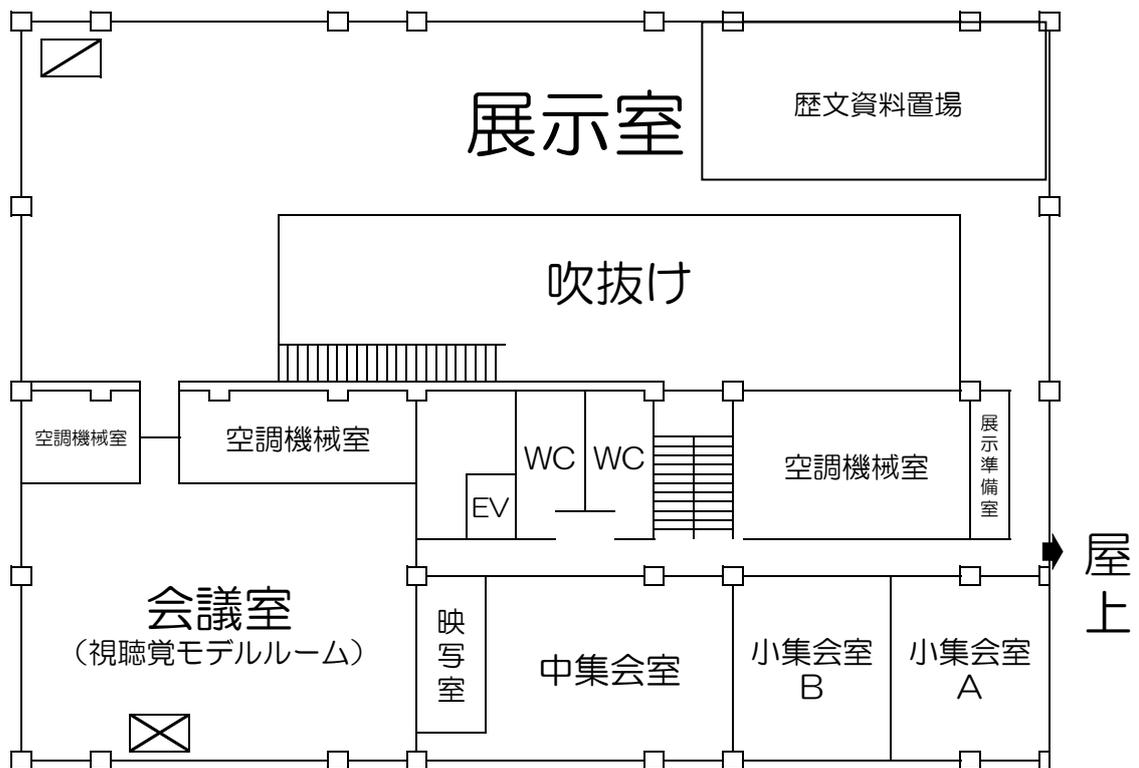
1階



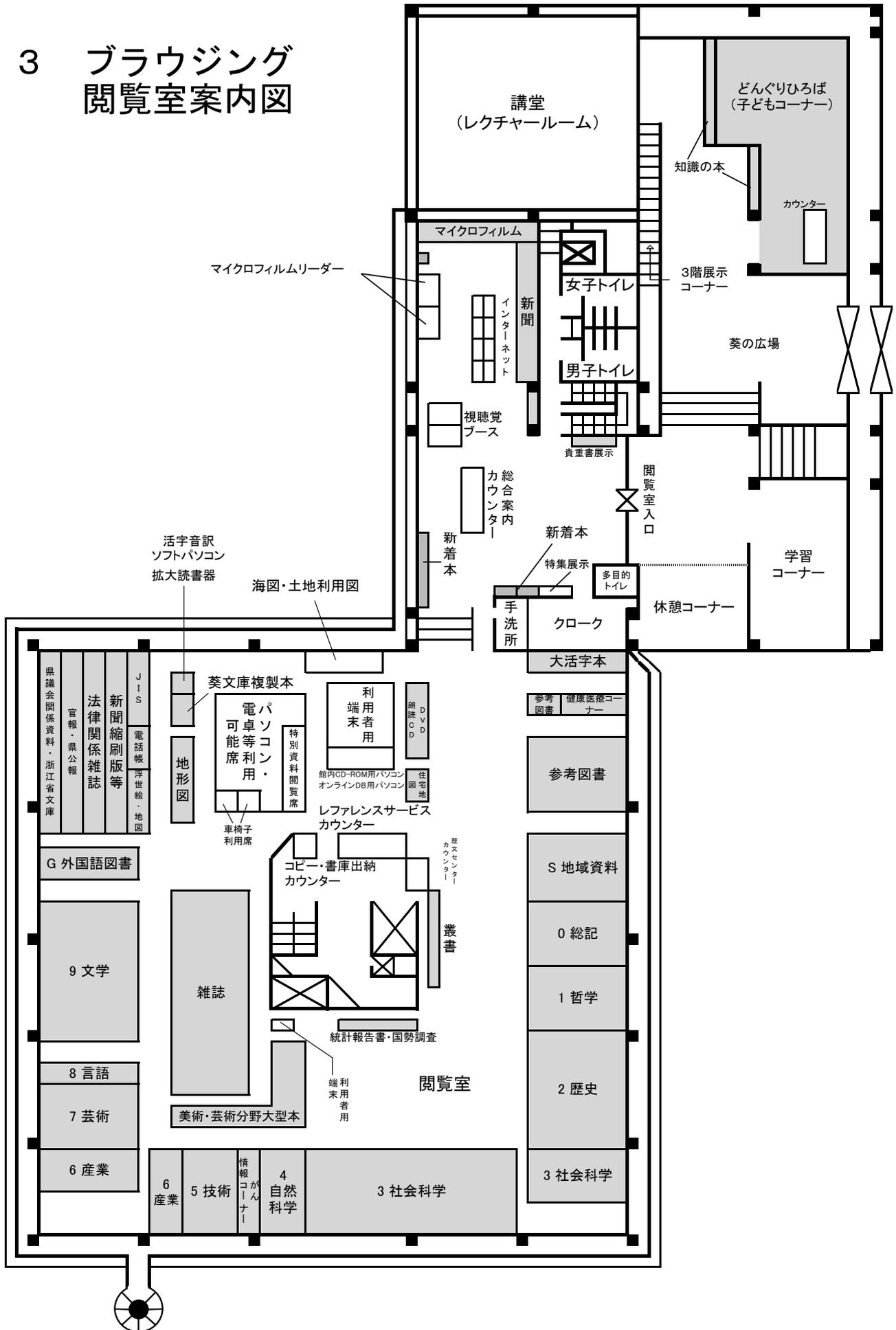
2階



3階



3 ブラウジング 閲覧室案内図



4 利用案内（令和6年度）

◆開館時間

午前9時～午後5時

（水、木、金曜日（祝日を除く）は午前9時～午後7時）

◆休館日

館内整理日（毎月の末日（平日）、第1・3・5月曜日（祝日の場合は翌日））

特別整理期間

年末年始（12月28日～1月3日）

県立中央図書館長が指定する日

◆資料

●一般図書・外国語図書・地域資料・児童資料・電子書籍

●新聞・雑誌・マイクロフィルム

●DVD・朗読CD等視聴覚資料

●特別取扱資料（葵文庫、久能文庫など）

原本の閲覧については事前に可否の確認と予約が必要
問合せ先 調査課一般調査班

◆閲覧・貸出・複写

●閲覧室には約10万冊の資料が開架になっており、閲覧室は約200席

●図書、雑誌、付録の貸出しは合わせて一人20点まで、22日以内

視聴覚資料の貸出しは一人3点まで、22日以内
初めての方は、住所等の確認できるものが必要（運転免許証等）

●資料は著作権法などの許す範囲で複写可能

◎歴史文化情報センター

・利用時間

図書館開館日の平日 午前9時～午後5時

資料の出納受付は午後4時まで

出納資料の返却は午後4時30分まで

土日祝日は事前予約した資料の閲覧複写のみ可能

（資料の追加、レファレンス等は不可）

・資料

県史編さん時の収集資料（古文書複写物、写真等）

・業務内容

県史編さん時の収集資料の保存・整理・公開に関すること
刊行物及び県内の歴史・民俗等に関する問合せへの回答

◎子どもコーナー「どんぐりひろば」

・利用時間

図書館開館日の午前9時～午後5時

・資料

絵本 約6,000冊

読み物 約2,000冊

知識の本 約1,000冊

・特徴

授乳室あり、一部カーペット敷き

定期イベントとしておはなしかいを開催

◎子ども図書研究室

・利用時間

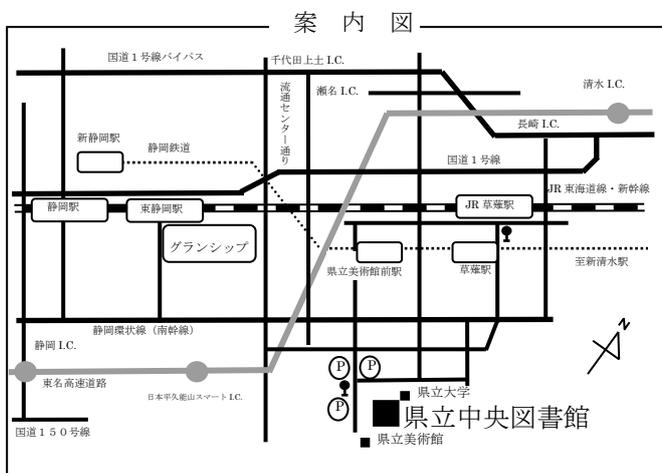
図書館開館日の午前9時～午後5時

・資料

児童書約12万冊

・特徴

平成15年度以降に刊行された児童書（コミック、ゲーム攻略本、学習参考書等を除く）を全点収集
中学生を除く15歳以上の方が利用可



所在地 〒422-8002

静岡市駿河区谷田 53-1

TEL 054-262-1242(代)

FAX 054-264-4268

表紙 『三国通覧図説（10）』

当館請求記号：092/1

出版年：嘉永6（1853）年 写

大きさ：27×20cm

著 者：林 子平

〈三国通覧図説について〉

朝鮮、琉球、蝦夷の三国及び小笠原諸島の地図と各地域の地理、風土、風俗、産物について解説した地誌で、天明6（1786）年に刊行された。特に蝦夷についての説明が詳細で、ロシアの南下を警戒する考えが背景にある。安政元（1854）年に来日したペリーは、アメリカ捕鯨船長フツフィンが発見したと、小笠原の領有権を主張したが、蕃書調所所蔵の『三国通覧図説』の存在により日本の領土と認められた。寛政4（1792）年に林子平（1738～93年）が幕政批判の罪で処罰された際、『海国兵談』とともに発禁処分となる。

この表紙は挿絵の一つで、オットセイに蝦夷の人々がヤスを投げる様子を描いたものである。

葵 58 号

令和6年6月1日発行

編集・発行 静岡県立中央図書館

〒 422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1

電話 (054) 262-1242(代)

F A X (054) 264-4268

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

